「ライトアップされた用作公園の紅葉」　山城　幸三郎（大7･大分市）

四極

No.122
（令和３年10月）
大分市金池町 2-7-21
パークサイド大分駅まえ 302号
一般財団法人
四　極　会
TEL 097 (538) 2462
FAX 097 (529) 6623

四極会 HP

走って、走って

（別府支部長）
宮川　喜久生

昨年早春、まだ新型コロナウイルスが確認される前のある日、別府支部の此本顧問、栗原前支部長（現顧問）からお呼びがかかり市内某所へ出向いたところ、両顧問と支部役員２名が既に着席。支部長就任のお話でした。お断りする理由はなく、次期総会で支部長交代が提案されることとなりました。

ところが、感染の第１波が襲ってきて定時の総会開催が叶わず、議案は書面決議というかたちをとらざるを得なくなり、支部長就任も承諾された次第です。その後の懇親会、更に今年度の支部総会も勿論開催されておりません。

そんな状況下ですが、母校１００周年記念事業がスタートしました。これに向けての募金活動も終盤が近づいてきました。別府支部におきましては本部設定の目標額を無事達成することが出来ました。此本顧問、栗原前支部長をはじめ役員諸氏のご尽力と支部会員の同意を頂き、年会費の一部を募金に拠出するというスキームが３年前に出来上がりました。これが十分に効果を発揮し、当初の目標を達成することが出来ました。

さて、私が大学時代を過ごしたのは昭和47年から53年まで。第１次オイルショックの最中でした。当時、紫岳寮の住人でしたが、自主管理自主運営の寮役員の先輩が館内放送で「トイレットペーパーの使用は１㍍以内厳守のこと」と、連日のように呼びかけていたことを思い出します（その声の主は実兄でしたが）。また、入寮から２年ほどは、夜毎、深夜の先輩方の訓示があり同学年の寮生と廊下に整列し、真面目に頭を垂れて聞いていました。「協力」・「連帯」等々。昼は陸上部の練習で走り、夜は「ストーム」のおまけでグラウンドを走り、走ってばかりの生活で所定の修学年数を大分超過し、親に苦労と心配を掛けてしまいました。

そして就職困難期。私はというと、当時殆ど就職する人がいなかった医療業界に進みました。爾来、プロパーで今日に至っております。今では多くの文系大卒組が活躍されており、医療職とともに経営の重要な役割を担われています。県内の医療機関にも、四極会同窓生が次第に増えてきています。

こうして仕事に追われるなか、十数年前に同窓生・久寿米木氏の紹介で旦桜会を知り、更に別府支部の例会にも参加させてもらうことになり、現在に至っています。旦桜会では諸先輩方の卓話を拝聴し、異業種の方々と交流させていただいています。また、別府支部では大先輩方と酒席を供にさせていただき、貴重なお話を伺っております。

趣味はマラソンですが、練習を開始したのは40才の時でした。大学では中距離までで、せいぜい１５００㍍。県内一周大分合同駅伝には大学時代から選手そして監督として、現在はサポート役として地元宇佐市に貢献すべく頑張っています。43才で初マラソンを走り、現在37回出走。完走率は80％です。まだまだ走り続けます。毎年恒例で参加していた北海道マラソンが、去年今年とオリンピックの影響で中止になり、一寸モチベーションが下がっていますが、来年の８月最終日曜日はゴール地点の大通公園で完走の生ビール大を飲んでることでしょう。

いよいよ記念事業が開始されましたが、求められれば地元として下働きに徹し、役に立てればと思っています。全国から多くの同窓生に参加頂き、宿泊は別府温泉で疲れを癒して頂きたいと思います。別府は元気です。お待ちしています。（大学26回）

100周年事業スタート

まず経済トップセミナー

広瀬大分県知事が講演

講演する広瀬知事

〈美しい大学になれ〉

５回連続経済トップセミナーの第１回目、広瀬勝貞大分県知事の講演会が令和３年９月29日に開催されました。

会場はＪ：ＣＯＭホルトホール大分の大ホール。新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたとはいえ、受講者は入り口で検温、手の消毒を経て、場内では一つ置きに着席するなど、十分な予防対策を施して実施されました。

四極会員の他、広く商工会議所などの経済団体に案内した成果もあり、会場は学生50人を含む約３００人の受講者で埋まりました。

広瀬知事は、大学の役割として「教育」「研究」「社会の発展への貢献」を挙げ、"Center of the community"知の拠点としての大分大学への期待を語られました。

経済学部卒業生の内約４，０００人が県内の経済界で活躍していること、県内で働く教職員の31・７％、県職員の８・６％が大分大学の卒業生であることを例に挙げ、大分大学は人材供給面で十分に貢献していると評価されました。

研究面では、東九州メディカルバレー構想の推進力になっていること、省エネの要であるモーターの効率化に結び付く次世代電磁力の研究開発、減災・復興デザイン教育センターの活動などを例に、人口減少対策が切実な課題である大分県が取り組んでいる様々な問題に大分大学が参画していることを説明されました。

今後も、大分大学に期待する分野として、ドローンやアバター（遠隔操作ロボット）の活用、宇宙港、地熱エネルギー及びコンビナートで発生するガスからの水素の生産に注目されています。

講演の最後に知事は「この地上において大学ほど美しいものはない」というイギリスの詩人ジョン・メイスフィールドの言葉を紹介されました。これは、"無知を憎む人々が、知ることに努め、真理を知っている人が、他の人々の目を開かせようと努力する場所が大学である"という意味だそうです。

１時間の講演で、受講者は大分県と大分大学の関係について再認識し、地元行政や県民が大分大学に寄せる期待と、それに対する大学の責任を感じ取りました。

連続セミナーのトップとして相応しいお話をしていただいた広瀬知事に感謝します。

広瀬知事の講演を開く四極会員と市民の皆さん（大分市内のホルトホール大分）

九州旅客鉄道㈱
代表取締役社長
青柳 俊彦氏

九州電力㈱
代表取締役社長
池辺 和弘氏

サッポロビール㈱
代表取締役社長
野瀬 裕之氏

前日本銀行総裁
白川 方明氏

10月は白川前日本銀行総裁

〇日　時　令和3年10月21日(木)14:00～(開場13:30)
〇会　場　大分市　J:COMホルトホール大分　大ホール

J:COMホルトホール大分

9月29日に開催された第1回に続き、10月21日は白川前日本銀行総裁の講演が行われました。白川氏は大分支店長のご経験もあり、大分にゆかりのある方です。第3回以降も大分県にご縁の深い企業のトップの方をお招きしております。盛大なセミナーになるよう多くの同窓生、現役学生、一般市民の皆さんのご来場をお待ちしています。

《今後の開催予定》
会場、講演開始時間はすべて同じです

令和3年11月18日(木)
サッポロビール株式会社
代表取締役社長
野瀬　裕之氏

令和3年12月9日(木)
九州電力株式会社
代表取締役 社長執行役員
池辺　和弘氏

令和4年2月17日(木)
九州旅客鉄道株式会社
代表取締役社長執行役員
青柳　俊彦氏

《セミナーの申し込みはこちら》
〇希望するセミナーの開催日、お名前、連絡先電話番号を記載し、FAX又はE-mailで下記に申し込みください。(参加費無料)
FAX：097-529-6623
E-mail：shiwasu@po.d-b.ne.jp

こちらからでも
申し込みできます

完成した黒土記念講堂（202号教室）

黒土　始氏

黒土記念講堂が完成

経済学部長　高見　博之

令和４年（２０２２年）に迎える創立１００周年の記念事業の一環として、経済学部棟２階２０２号教室に整備しました「黒土 始 記念講堂」のオープニングセレモニーを９月30日に開催しました。

この整備は、経済学部の前身である大分高等商業学校で学ばれ、第一交通産業株式会社を起こされた大分大学名誉博士である代表取締役創業者会長 黒土 始 様からのご支援により実現できたものです。心より感謝申し上げます。

当日は、黒土 始 会長はじめ、第一交通産業株式会社の方々をお招きし、大学側から北野正剛学長、役職員、経済学部教職員、四極会、経済学部後援会及び学部生など、１００名を超える方々にご参加いただきました。

セレモニーは、経済学部卒業生の小野亜希子さん（元ＯＢＳ大分放送アナウンサー）の司会により進行され、学長、経済学部長の挨拶とお礼の言葉に続き、黒土会長へ感謝状の贈呈、及び講堂内に設置された黒土会長の胸像の除幕式が行われました。その後、２０２２年に経済学部と同じく百歳を迎えられる黒土 始 会長が自ら壇上に立たれ、後輩に向かっては「努力は天才に勝る」「世の中の動きに目を凝らして失敗を恐れずに挑戦しなさい」「自分の価値は自分で築いてほしい」、大学に対しては「大学に課せられた役割を果たしてほしい」「次の１００年の繁栄と発展をめざしてほしい」と激励のご高話をいただきました。

最後に参加者からの拍手の中、黒土会長をお見送りし、小野亜希子様の爽やかで最高の司会のもと、セレモニーは盛会のうちに終了しました。

本講堂は、前10列を講堂仕様の１６７席、後７列を教室仕様の１２６席、車椅子対応席等27席の合計３２０席の構成です。全席に電源コンセントを設置し、ノートパソコンなどの利用者がバッテリー残量の心配なく講義等に集中できる環境となりました。

また、本記念講堂は通常の学部内の授業以外にも、大学入学共通テスト、外部の資格試験、就職試験会場などとして学外の方にも提供し、広く開かれた大学施設として地域社会にも貢献できるよう活用いたします。

100周年記念式典に合わせて
会場１階で自遊展を開催

全国の四極会員の皆さん、奮って出品を！

令和４年６月25日の記念式典に合わせて、第８回芸術文化祭「自遊展」を24日、25日、26日の３日間開催します。式典会場のiichiko総合文化センター１階、アトリウムプラザに四極会員の日頃の趣味の成果を展示します。同窓生が集まるこのチャンスを生かして、全国の会員の皆さん、是非ご出品下さい。希望者は令和４年３月末までに四極会事務局にお問い合わせください。

第７回を開催しました

令和３年度の自遊展は10月４日～10日にかけて、大分市アートプラザで芸術文化作品展示会を開催。また、大分の歌音楽祭は16日からオンラインで実施しました。

芸術文化作品展示会

34名の80作品がアートプラザ・ギャラリーAの広い会場を埋めました。出品者の知人や一般市民が来場され、いつものように、あちこちで出品者と話し込む姿が見られました。来場者と親しく意見を交わすことが出来るのが自遊展の魅力の一つになっています。

今回もコロナ禍で大分大学美術部の参加はかないませんでしたが、写真部から４名のほか、社会イノベーション学科の学生３名から写真を出品していただきました。

俳句、川柳、短歌の出品者は事前に集まって、木山広喜さん（大10）と安東政義さん（大16）が清書してくれた作品を木山さんの指導下、和紙で裏打ちし仮巻（掛軸）に装丁する作業を共同で行いました。

能面を出品された三浦泰夫さん（大６）は桐や檜の角材から面を彫りだすまでの行程を実物で展示し、清澄邦夫さん（大６）は作詞作曲演奏をすべて自ら担った同窓会の歌（あいつに会える）の映像を上映、藤沢周平ばりの時代小説を書く渡邉秀夫さん（大20）は希望者に作品を提供するなど、今回も楽しく充実した自遊展になりました。

～出品内容～

版画（４点）、日本画（２点）、水墨画（２点）、切り絵（３点）、水彩画（２点）、洋画（４点）、写真（21点）、能面（３点）、木彫（４点）、陶芸（７点）、書（４点）、俳句（６句）、短歌（９首）、川柳（５句）、書籍（11点）、映像（１点）

四極会員の作品を見て廻る市民の皆さん

大分の歌音楽祭

社会イノベーション学科渡邉ゼミの学生が企画・運営する大分の歌音楽祭。昨年と同様に大分駅北側の祝祭の広場で計画していましたが、オンライン講義が続く中、若い人を集めるのが困難になり、オンラインで実施することになりました。今回の副題「Anyone音でつなげる新たな話（わ）」。この「四極」には結果報告が間に合いませんが、次のような計画を進めています。

10月16日の11時～14時に出演団体の紹介、一部団体の生演奏等の開催セレモニーをオンライン（Zoom／インスタグラム）で実施。その後11月末まで、出演団体の演奏、パフォーマンスをユーチューブで動画配信。

自遊展に出品の皆さん

百周年に関わって感無量です

木山広喜さん（大10）
＝書、水墨画、短歌＝

自らの書で自遊展をレベルアップするだけでなく、会員の短歌・俳句・川柳を展示用に清書するなど、この会の第一の立役者

▼四極会員には素晴らしい才能をもった人が多いね。現在の出品者以外にも趣味をもった人は是非参加してほしい。出品者が固定してきたきらいがあるので、新しい参加者を期待します。短歌・俳句・川柳を関係者が集まって和紙で裏打ちし仮巻に装丁する作業も楽しいものです。

木山広喜さん

絵や写真、川柳などの文芸は年を取って体力が多少衰えても続けられる趣味として皆さんにお勧めします。

言い出しっぺである田中雅雄さん（大11）が体調を壊して出れなくなったのが寂しい。

石井健治さん（大14）
＝写真＝

写真の部の幹事。今回は歴代最多の21点が集まった。

▼県美展や市美点は出品数が多すぎて埋もれてしまう。自遊展は来場者と交流できるし、多くの知り合いに鑑賞してもらいコメントもいただけるのが魅力ですね。芸術作品の域に達していなくても、楽しめる作品が集まるのも自遊展のいいところです。

今回出品した「待ちぼうけ」は、エッセル塔近くのセーヌ川クルージングで夕焼けを待ち構えて狙いました。

石井健治さん

安部暢弘さん（大16）
＝木彫、陶芸、写真＝

今回は小鳥など鮮やかな色彩の木彫や陶芸作品を多数出品

▼定年退職して16年、ストレスから解放されて気楽に作ってきた作品の発表の場を提供して頂き、感謝しています。

作品を見て、「これなら自分も出品できるかな？」とか「自分も制作してみようかな？」と思う人が出てきて、その人が一歩を踏み出すキッカケになれば嬉しいです。

様々な趣味を楽しむ同窓生に、生き甲斐となる発表の場を与えてくれる自遊展、いつまでも続くといいですね。

安部暢弘さん

安東政義さん

安東政義さん（大16）
＝書＝

第６回からは木山さんとともに短歌・俳句・川柳を清書している

私の書は自遊展と共に歩んできました。１点書くために１５０枚は練習し、夏の１ヶ月は好きなビールも飲まずに１日に約６枚書き続けます。同じものを県美展にも出品し、今年で５回入選しましたので、もう１回で会員になれるのが楽しみです。

いろんな才能をもった人が同窓生にいるのを知って刺激を受けます。趣味を極めると人間関係も広がるし、皆さんも一緒にどうですか。

令和３年度（2021年度）　四極会寄附講義　「会社研究」

開講時限：前期／水曜日３限（13時10分～14時40分）講義室 202号教室

回	講義日	企業・団体名	役職	講師
1	4月21日	株式会社 大分銀行	専務取締役（代表取締役・営業統括本部長）	菊口 邦弘
2	4月28日	大分合同新聞社	取締役 論説委員会委員長	清田 透
3	5月12日	株式会社 豊和銀行	取締役頭取	権藤 淳
4	5月19日	大分ベンチャーキャピタル 株式会社	代表取締役社長	渡邉 剛之
5	5月26日	日出町	町長	本田 博文
6	6月 2日	西日本電線 株式会社	代表取締役社長	鈴木 貞二
7	6月 9日	三和酒類 株式会社	代表取締役社長	下田 雅彦
8	6月16日	大分朝日放送 株式会社	代表取締役社長	上野 輝幸
9	6月23日	株式会社 オーイーシー	代表取締役社長	加藤 健
10	6月30日	株式会社 佐伯建設	代表取締役社長	川崎 栄一
11	7月 7日	大分トヨタ自動車 株式会社	代表取締役社長	三宮 邦雄
12	7月14日	大分バス 株式会社	代表取締役社長	高寄 和弘
13	7月21日	大分みらい信用金庫	理事長	森田 展弘

地域活性化へさらなる挑戦

株式会社大分銀行
専務取締役　菊口　邦弘

菊口 邦弘 氏

今年の講演は昨年のＺＯＯＭを活用したオンライン講座でなく、人数制限を付したうえでの対面講座でした。今年も昨年同様にコロナ禍での講義でありましたが、大学や学生の皆さんが適時適切に環境変化に対応していることを感じることができました。今回の講義では、主に「地域を取り巻く環境変化」、「大分銀行の羅針盤」、「大分銀行の取組み」に関するお話をさせて頂きましたが、いずれのテーマにおいても学生の皆さんにお伝えをしたかったキーワードは「環境変化への対応」や「変革への挑戦」です。

銀行の果たすべき使命は大きく変わってきています。大分銀行は、従来の金融仲介機能だけではなく、情報生産機能と非金融サービスを合わせた新たな価値創造機能を多くの企業と連携して実現し、地域の産業・企業・ヒトにとって付加価値のあるＣＳＶを創造することを目指しています。

「地域を取り巻く環境」では、人口統計や産業統計を用いた地域経済が衰退しつつある状況や、ＩＴやデジタル化による「科学技術の進化」がもたらす「産業構造の変化」を説明し、大分銀行がこれらの環境変化にどのように対応していくかの基本方針をお話しさせて頂きました。

「大分銀行の羅針盤」では、大分銀行が「ＳＤＧｓ」を経営モデル・地域支援モデルに組込み、「新たなＣＳＶの創造」と「地域価値の創造」を目指す、２０２１年４月に定めた長期ビジョン「地域の持続可能性を高める価値創造カンパニー」についてお話させて頂きました。長期ビジョンへの実現に向けた取組みはスタートしたばかりですが、その実現に向けては、地域と地域のお客様との関係を大切にし、地域課題に向き合うという当行が大切にしてきた取組みや伝統を礎にし、変革へチャレンジしていく点をお伝えさせていただきました。

「大分銀行の取組み」では、大分銀行の持つ強みや経営資源を活用し役職員がお客さまに寄り添い、地域社会に貢献している具体的な活動実績を説明し、大分銀行が大切にしている伝統・取り組み姿勢、新たな挑戦の取組事例を紹介させて頂きました。

講義でも皆様にお伝えをいたしましたが、大分銀行では大分大学からの卒業生が自主自立の気概に溢れ、環境変化に適応できる人財として多く活躍しています。大分大学の学生は大分のために働ける素地が備わっている方が多いと感じています。

大分銀行は、地域課題に向き合い、地域の活性化に貢献する活動を今後ますます活性化してまいります。一緒に地域貢献に資する活動を幅広い視野を持って実施しましょう。環境変化の激しい時代の中においては、クリエイティブな発想を持った、チャレンジする方が必要です。そのような方を大分銀行は大歓迎します！。

最後に、大分大学経済学部創立１００周年を１年後に控え、大分大学は地域における「知の拠点である」との認識のもと、卒業生として今後期待すること

を述べます。大分県の各種統計指標で示した通り、地域は衰退傾向にあり、地域の持続可能性を高める活動が今後益々重要になってきます。大分銀行も地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいますが、地域課題の解決を図るためには、多くの企業・団体と連携したオープンイノベーションやプラットホームを共創していくことが重要と考えています。大学における専門分野の研究を地域に還元する仕組みや、地域課題の解決を図るプラットホームを地域企業と共創して実現することを期待します。（菊口氏は現在、株式会社大分カード代表取締役社長）

県民と共に歩む

大分合同新聞社　取締役論説委員長　清田　透

清田 透 氏

ネット全盛時代を迎え、新聞社の経営は厳しい逆風にさらされている。皆さんは「情報はスマホで見るもの」と思っていないだろうか。しかも「タダ」で。その結果、若い人たちを中心に新聞離れが進み、販売部数の減少とともに広告もネット業界に押されている。

だが、ネット上の情報は、もともと記者たちが足を使って集めたものだ。新聞離れとは裏腹に、新聞に掲載される情報への信用度はテレビやネットよりも高い。経営環境の変化に関わらず、記者の役割と需要は変わらない。民主主義を守るため、新聞業界は社の体質改善と経営の多角化で未来を見据える。

今年、創刊135年を迎えた大分合同新聞も大分県唯一の地方紙として、「県民のために」を社是に掲げ、報道や各種事業を通して地域への貢献を目指している。より正確で役立つ情報の提供は、大分の文化や県民の暮らしを豊かにすると信じている。持続可能な大分県に向け、子どもたちの未来も切り開いていく。

今がチャンス、羽ばたこう

株式会社豊和銀行　取締役頭取　権藤　淳

権藤 淳 氏

昔から新聞社は職種のデパートと呼ばれるほど、いろんな仕事がある。記者や営業、事業、制作、印刷などだ。最近は新たな事業にも挑戦している。チャレンジ精神さえあれば学生の皆さんには面白い職場となるだろう。

個人的には、自分と同じ新聞記者をお勧めしたい。知らないことを聞き、そして学ぶ。情報と知識を自分の糧とし、それを皆に伝える。生涯学習と思えば、仕事としてこれほど役立ち、楽しいものはない。

取材する姿勢は、記者でなくても身に付けたい。世の中、文章に書かれていない面白い話がたくさんある。主婦の口コミは有力な営業の武器になるし、人に会って話を聞くことは記者と同じように人生を豊かにしてくれる。「教えてくれない」と思うのではなく、まずは自分で行動を起こすことだ。

見る、聞く、話す。そして触る、味わう、体験する。五感を磨くことで、何気ない情報に大きな価値を見出すだろう。そこには出会いがあり、人生の転機となるかもしれない。学生時代から「何でも見てやろう」の精神を大事にしたい。

大分大学経済学部様の創立100周年の寄附講義の一コマとして学部の皆さんに直接お話する機会をいただき、有難うございました。今回、「皆さんは、大学で、何を学んだら良いのか？」をテーマに、私の経験を踏まえた提言、豊和銀行の経営理念および「共通価値の創造」の具体的な取り組みであるVサポートについてお話させていただきました。

【皆さんへの提言】

GAFAMと呼ばれる巨大IT企業5社だけで2020年に時価総額は560兆円となり、東証1部上場企業約2200社の時価総額550兆円を上回りました。GAFAMの多くは創業者が20代前半の時の創業ですが、その創業を強く後押ししたのはインターネットという画期的な技術革新でした。

そして、今、コロナ禍により世の中は大きく変化し、ワクチン・治療薬が行き亘った後も元の社会・経済に戻ることが期待できない中、今後は、①経済合理性一辺倒の考え方の見直し、②デジタル化が急速に進むことは必至です。既存の価値観が大きく揺らぐ（パラダイムシフト）中、GAFAMが誕生した時代を遥かに凌ぐ激動の時代を迎え、混沌から新常態への移行は、むしろチャンスに溢れた時代と言えます。

新常態下、皆さんには、学生生活を通じて、世界の現実を知り問題意識を深めるとともに、物事の本質を見極める力を身につけてもらいたい。コロナ禍を嘆くよりも、コロナ禍で得られた時間的余裕を有効に活用して、世の中を学び教養を深めることで、限りないチャンスを掴んでいただきたいと思います。

【会社研究】

これまでの銀行はあらゆる業種の顧客と融資で結び付いており、顧客から見ると「交渉相手」

でした。しかし、豊和銀行が目指すこれからの銀行は、顧客の「相談相手」となり、”運命共同体“として共通価値の創造を行うことにあります。

当行はＶサポート業務（＝販路開拓支援）を通じて、業況の厳しい中小企業のお客さまの売上を増やすために、売り手と買い手の商談を設定し、契約成立・代金支払まで一貫して責任をもつ取り組みを行っています。売り手にとって売上が増えることは最大の付加価値であり、買い手にとってはＶサポートの商材を購入することで業務改善等に結び付けることができます。そして銀行は双方のお客さまから”ありがとう“と言っていただくことで、結果として貸出資産の健全化や融資ニーズの創出等が期待できます。加えて、当行は新たに創設した「創業・事業承継支援ファンド」を通じ、地元のスタートアップ企業や後継者難の地元中小企業の皆さまへの支援を行っております。新常態は私たち銀行にとってもチャンスであると捉えています。

【結びに】

皆さんは、①ＧＡＦＡＭのように、自分自身が「新ビジネスを創り出す立場」を目指すのか？　それとも、②銀行のように「新ビジネスを創り出す企業・人々」を『支える立場』を目指すのか？　何れにしても、新常態下はビッグビジネスチャンスの時代です。コロナ禍での様々な制約を乗り越えて、是非とも色々なことにチャレンジしていただきたい。そして優秀な皆さん方が豊和銀行に入行してくれることを心待ちにしております。

頼んだぞ！日本の未来

大分ベンチャーキャピタル㈱　代表取締役社長　渡邉　剛之

渡邉 剛之 氏

この度、卒業後35年を経て母校にて講演する機会を頂きましたことを、誠に光栄に存じます。

私が代表を務める大分ベンチャーキャピタル㈱は、県内では唯一の投資専門会社として、主にファンド投資を通じて地域社会に貢献することを目的としている会社です。

現在の我々を取り巻く地域経済は、「人口減少に伴う生産年齢人口の減少や内需の縮小」、「経営者の高齢化による休廃業・解散法人の増加」に加え、「新型コロナウィルスによる経済の縮小」など多くの課題を抱えています。また、日本経済自体も世界時価総額ランキングの30年間比較に代表されるように、日本から新たに世界を代表するような革新的な企業の輩出もなく、失われた30年と言われる中で日本の世界での存在感は着実に薄れつつあります。

日本経済と地域経済の安定的な発展のためには、講義の中でも申し上げましたが、「既存の企業や産業を守り支えていく」とともに、「爆発的に成長し大きな雇用を生み出すような新たな企業や産業を創出すること」、この二つを欠かすことができません。大分ベンチャーキャピタルでは「事業再生ファンド」「事業承継ファンド」「ベンチャーファンド」でそれに携わっています。

これからの日本の未来は、学生の皆さん方のような若い方々の双肩にかかっています。

今回の講義では、このような実情を学生の皆さんにお伝えし、アントレプレナーシップを持ち自ら起業しスタートアップ企業を興すのも一つの方法であるし、スタートアップ企業でＣＦＯ（最高財務責任者）を務めることや、大手企業に就職し企業内ベンチャーに携わることも選択肢としてあること、または金融機関やベンチャーキャピタル、総合コンサル企業等に勤務し、企業を支える側に回りベンチャー育成や企業再生、事業承継の業務に携わる道もあること、などを伝えたいと思い講話をさせて頂きました。

１００周年を迎える大分大学経済学部卒業生の中から、10年後、20年後の日本経済や地域経済を支え、リードしていくような人財が現れることを期待して止みません。

大分大学経済学部の今後益々のご発展を心より祈念申し上げます。

感染症防止へ行政の役割

日出町長　本田　博文

本田 博文 氏

5月26日の寄附講義の際は、学生の皆さまにはご清聴いただき、ありがとうございました。皆さんと対面はできませんでしたが、講義後の質問から皆さんの熱意が伝わってきました。

今回は、「感染症流行期における行政の役割」と題して、わが日出町における新型コロナウイルス感染症対策のお話をさせていただきました。この度のように、一部地域で確認された感染症が世界中に広がって、しかも多数の感染者が発生し犠牲者も出るという事態は、我々が一生に一度経験するかどうかという稀な出来事だと思います。この感染症は、世界中の人の生命と健康を脅かしただけでなく、

経済にも大きな打撃を与えました。とりわけ大衆を相手に事業を行う者は、収益稼得機会を極度に制限させられ、苦境に陥っていることがマスコミで報道されています。

寄附講義において前記のテーマを取り上げたのは、今回の非常事態において、日出町は現状をどう受け止め、何を想定し、どう行動してきたかをご紹介することで、あまり知られることのない行政の意思決定過程を知って頂き、行政の仕事に関心を持ってもらいたいと思ったからです。

講義の中では、感染防止対策についてお話しました。町民への情報提供、感染防止の啓発、備蓄マスクの配布、感染防止のための設備整備を行ったほか、健康維持のための体を動かすことの啓発などに取り組みました。また、地域経済の下支えについてもお話ししました。事業継続資金借り入れに対する助成、家賃や光熱水費の助成といった支援や、町内の消費拡大のためのプレミアム付き商品券の発行やテイクアウトの取り組みなど、様々な施策に取り組んできました。

このようにして、感染症による町民の生命や健康への影響を最小限に抑えるとともに経済の維持に努めてきました。

行政は、日頃は総合計画などに基づいてまちづくりを進めたり、その時々の行政課題の解決に取り組んだりしていますが、今回のような危機に際しては、あらゆる方面への影響を想定し、スピーディに行動することで住民生活を守ることに努めています。

最近は公務員離れが進んできているようですが、行政は住民の期待に応え、より暮らしやすい未来を創っていくやりがいのある仕事ですので、ぜひチャレンジしてください。意欲ある人材をお待ちしています。

情報通信と変化への対応

西日本電線株式会社
代表取締役社長　鈴木　貞二

鈴木 貞二 氏

大分大学経済学部の創立100周年を来年に控え、その記念事業の1つである県内企業経営者による「寄附講義」のご機会を頂きありがとうございました。

西日本電線株式会社は、電線やケーブル等様々な製品の開発・製造・販売を行っているインフラメーカーです。大分から全国へインフラ構築に携わる事業を展開しており、従業員全員が経営理念「MVCV（Mission・Vision・Core Value）」を共有し、安全で豊かな社会づくりに貢献するため日々邁進しています。

今回の講義では、情報通信の変化やその基盤となる光ファイバに関する需要動向等のお話をさせて頂きました。現在、凄まじい勢いで通信データ量が増加しており、大容量データを超高速・長距離まで送ることのできる光ファイバの需要増が見込まれています。光ファイバの世界需要は2018年に500百万kmfに到達し、そのうち約半分は中国で、280百万kmfで高止まりしている状況です。5G商業化による伝送量の増大や大規模DataCenter増加による光多心化・長尺化、IoTの黎明による光ネットワーク拡大やDXで通信量拡大、更には昨今のコロナ禍のテレワーク等で通信量が急速に増加し、世界的にファイバ関連ビジネスの需要が増加しています。

急速に変化していく現代社会において大切なのは「環境変化を先取りし変わり続けること」です。学生の皆様には現状を変える原動力を持って、「失敗を恐れずに挑戦」してほしいと思います。失敗を恐れない精神は、当社の長い歴史の中で培われてきた企業文化でもあります。学業だけでなく、読書をしたり新しい趣味を探したりぜひ色々なことに挑戦してみてください。また、自分自身の判断基準や人生の生き方の基準となる「倫理観」と双方向の「コミュニケーション」というのも培っていただきたいです。そして何よりお伝えしたいのは、大分は素晴らしい！ということです。東京下町育ちの私にとって、目の前に海や山等の豊かな自然があることはかけがえのない大きな財産であると感じています。ぜひ大分の素晴らしさを自慢してください。

当社は昨年創立70年を迎えさせて頂きましたが、100年更にその先まで続く企業として継続的に発展するために、新しい発想や取組み、新たな情熱やエネルギーが必要であると思っています。そんなパワーに溢れた方、一緒に明るく輝かしい未来を創っていきませんか？

最後に、学生の皆様の今後の益々のご活躍と四極会様のご発展ならびに会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。（鈴木氏は現在、顧問）

いいちこの歩みと挑戦

三和酒類株式会社
代表取締役社長　下田　雅彦

今回、四極会寄附講義で『大分麦焼酎「いいちこ」の歩みと挑戦』の話をさせていただきました。ここでは、講義の最後に皆さんにお伝えしたかったことを述べたいと思います。

広辞苑によると、「自己実現とは自分の中に潜む可能性を自

分で見つけ、十分に発揮していくこと。またそれへの欲求」とあります。しかし、自分の中に潜む可能性を自分で見つけることは容易ではありません。むしろ、十分に可能性を引き出せないまま年を重ねてしまうことが通常です。私の３つの経験知が、皆さんの今後の一助になれば幸いです。

１．自己実現を支える「宝言葉」

「宝言葉」は私の造語です。「人生において宝物のように大切にしたい言葉の数々（複数可）。名言、ことわざ、人生訓、金言、座右の銘などにとどまらない。人生、運命に影響を与えるような特別な言葉。オリジナル言葉でも良い」というものです。

「歴史なし！文化なし！技術なし！からの脱却」、私の宝言葉の一つです。大分麦焼酎の黎明期に常に意識していたテーマでした。麦焼酎「いいちこ」の歩みと挑戦の原点であり、私の成長を支えた言葉であったことを改めて感じています。

２．弱点、コンプレックスこそ成長パワーの源泉

自分のなかの可能性を引き出す一つの方法であることは周知の通りです。不安、迷い、コンプレックスは、あって当り前、自己実現は自分で切り開いていきましょう。今の三和酒類の成長パワーの源泉は、「（酒）文化は高いところから低いところへ伝わるが、低いところから高いところには伝わらない」という、アートディレクター河北秀也氏の言葉です。日本では焼酎は食中酒として親しまれていますが、海外では蒸留酒はＢａｒ文化のお酒として根付いています。この文化の違いをどう埋めるか、洋酒文化に対抗できる焼酎文化の良さや価値を探求する新たな挑戦が始まっています。

３．人生の「宝言葉」を見つけよう

言葉の持つ力が人生に大きな影響を与えうることは皆さんも漠然と認識していると思いますが、積極的に活用することを意識して頂けたらと思います。「宝言葉」を見つけるための手段は、教養や読書だけではありません。日常の会話の中にも優れた言霊に触れる機会があります。出合った瞬間を逃さないこと、大切な言葉と位置づける感性を養っていくことで、これからの人生が充実したものになると思います。

最後に、大分大学経済学部創立百周年記念事業のご成功と、学生の皆様の今後のご活躍、四極会様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

下田 雅彦 氏

この10年で飛躍したＯＡＢ

大分朝日放送株式会社 代表取締役社長　上野　輝幸

上野 輝幸 氏

今回、経済学部で学ぶ皆さんに「寄附講義」を通じてＯＡＢの取り組みについてお話をする機会をいただき、この場を借りて感謝を申し上げます。

講義では、この10年余りにわたるＯＡＢの戦略的な取り組みや大分の地方局としての責任、そしてインターネットに対する考え方についてお話しました。

ご存じのようにＯＡＢは大分地区で３番目にできた最後発局で10年ほど前は局イメージも社員の意識も最下位でした。このため、まずは局イメージアップのために、大分の雑木林を再現した全国でも例を見ない野外型スタジオやＮＡＳＡの指令室をイメージした報道センターなど斬新な局舎づくりを図りました。

さらに、社員の意識改革には８年前にｉＰａｄを従業員全員に配布するなどして最新鋭のＩＴ機器を使いこなすことでコンプレックスの一掃に努めました。

その後、全国の放送局で初めて４Ｋ制作システムを導入、併せてインバウンド誘致のための海外展開事業も開始、ラグビーＷ杯大分開催に合わせて祝祭の広場で大型のイベントを展開するなどの戦略的な取り組みで「元気な地方局」としてＯＡＢの名前は全国に広がりました。

また、４年前、夏の高校野球大分大会を県内のケーブルテレビ各局とリレー中継を行い、全国で初めて全試合完全放送を成し遂げました。

ところで、地方局に与えられた最大の責務は台風や地震など有事の際の情報発信です。災害が少ないといわれた大分も、このところ九州北部豪雨、熊本・大分地震そして昨年の集中豪雨と毎年のように災害に見舞われています。

最近の災害報道は地上波テレビだけではなく、Ｌ字、ＳＮＳなどネットメディアを通してもライフラインの情報を発信しなければなりません。

20人余りの報道部員だけではとても対応できないため全社を挙げて体制を構築し、必要なライフラインの情報を発信することで地域の信頼にこたえています。

さらに、今回のコロナ禍にあっても放送は守らなければなりません。

最近、インターネットの台頭で若者のテレビ離れなど言われますが、ネットとテレビメディアの違いは情報の信頼性です。熊本・大分地震の時、ネットで「熊本の動物園からライオンが逃げだした」との話が拡散して大騒ぎになりました。私たちテレビメディアは情報の一つ一つをフィルターにかけて真偽を確認して放送します。

ただし、若者を中心に多くの人たちが日常的にネットを見て

いることは確かです。速報性もあります。

テレビメディアもインターネットに対して敵対するのではなく共存していくことがさらに求められると思います。

今回の講義では学生の皆さんとフェイスｔｏフェイスでお話ができなかったのが残念です。

次回講義のチャンスがあれば、是非、皆さんの顔と表情を見てお話しできればと願っています。

デジタル時代の今と未来

株式会社オーイーシー
代表取締役社長　加藤　健

加藤 健 氏

この度は、このような機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。

私がお伝えしたいことは、私たちが生きているこの時代は第４次産業革命の只中であり、今まさに単なるデジタル化ではない、ＤＸ＝デジタル革命の時代に入っているということです。そしてそのＤＸとはなんなのか、この時代に何を学び、何を目指していくべきかを自ら学び考えていただきたいということです。そのヒントは政府が既に打ち出しているＤＸレポートや各企業が開始したＤＸ戦略にあります。現在はＷｅｂ検索でそうした情報は容易に入手できますから、そこに記載の情報、キーワードからどんどん掘り下げて実践的に学んでいただきたいと思います。

この30年間で世界に大きく後れをとり、今後少子高齢化がさらに進み、コロナでも大きなダメージを受けた日本が国際競争で復活していくためには旧態依然とした体制、組織、考え方、やり方から脱却していかねばなりません。そのキーワードがＤＸです。この時代認識から現実に世の中では産官学で様々な取組が既にスタートしています。当社も大分から全国展開する企業として社会やお客様の課題解決につながる製品・サービスを様々な企業、大学、機関と連携して創出し、ＤＸ社会の進展を目指し、実現しております。一方で、ＤＸは古いものの否定ではありません。むしろ、日本の地域の芸術・文化・伝統といった守るべきものも大切にしていかねばなりません。時と共に失われようとしているものもＤＸの中で保護し、生かし続けねばなりません。そうした取組も着実に始まっています。日本らしいＤＸの推進により、世界から尊敬される日本を創っていくことがこの時代に生きる私たちに課せられた役割ではないでしょうか。そのために最先端技術を学び、これを駆使し、産官学のあらゆる場所で改革を進めていかねばなりません。但し、ＤＸも技術活用も手段であって目的ではありません。改革の目的はあくまで新しい時代における豊かな社会と幸福の実現にあります。皆さんがこれからどの道に進まれようとも皆さんにはこの時代にチャレンジしていただきたいと思います。

建設業の使命と展望

株式会社佐伯建設
代表取締役社長　川崎　栄一

川崎 栄一 氏

今回四極会寄附講義「会社研究」のご依頼があり、講師として登壇する機会をいただきました。当日は新型コロナウイルスの影響があり、オンライン形式での講義となりました。

経済学部の学生が対象ということもあり、建設業の魅力に少しでも触れてもらいたいとの想いから、「建設業の使命と展望」というテーマでお話しさせていただきました。

1）建設業の使命

豊かな自然に恵まれていると同時に、地震・台風・豪雨等の常襲地帯にある日本で、「安心」「安全」「快適」な暮らしを守るために、建設業が担うべき役割はたくさんあります。防災減災対策を含むインフラ整備や、災害が発生した時の復旧・復興、地方の雇用創出と地域経済を支える産業としての社会的役割など、社会・経済・地域を支える使命を果たしていかなければならないと感じています。

2）建設業の展望

国土強靭化対策など政府建設投資の下支えもあり堅調に推移する建設投資額に対し、建設業就業者の高齢化が進行するなか、人材の確保と次世代への技術継承が大きな課題です。ＩＴを活用した取組みは他業種より少なく、「働き方改革」や「生産性向上」に向けた取組みが喫緊の課題となっています。魅力ある職業と認識してもらえるよう働き方改革とともに、ＢＩＭの活用やＩＣＴ技術を活用した施工管理などに取り組んでいるところです。

3）佐伯建設の取組み

２０３０年を見据えた基本方針として、「九州で一番信頼される建設会社になる」を掲げ、３か年ごとに中期経営計画を策定し、経営を行っています。現中計では、特に20・30代の若手社員を中心に「SAIKI-Active2030」というプロジェクトを発足し、様々な地域社会課題の解決に向けて何ができる

かという議論を進めています。そこには「社会や地域への貢献を意識しながらやりがいを持って働く社員を育てたい」という想いがあります。

４）学生の皆さんへ

企業とは〝環境適応業〟とも言われます。取り巻く環境は刻一刻と変化しており、我々も変化していかなければなりません。また「企業は人なり」と申します。人が成長しなければ、企業も成長できません。学生の皆さんには社会の動きに関心を持ってほしいと思います。そして、何よりも受け身にならず、主体的に動くことを心掛けていただきたいと思います。人は何のために生きているのでしょうか？私は「成長していくためである」と考えます。成長することが生きていることの証であり、言い換えると、人格を磨くということ、人間が持っている魂を磨くということでもあります。ぜひ、今日よりも明日、一歩でも成長できるよう最大限の努力を払っていただきたいと思います。

最後になりますが、学生の皆様の今後のますますのご活躍と、四極会様のご発展をお祈り申し上げます。

時間や人間関係を大切に

大分トヨタ自動車株式会社　代表取締役社長　三宮　邦雄

三宮 邦雄 氏

はじめに、今回の企業研究の講義の中で、ディーラーの将来性は「人材」で大きく成長するか否かが決定するという話をしました。そのために弊社ではまず「教育の場」「研修の場」をしっかりと整えて育成し、弊社の社員としての資質を高めていくことが重要と考えています。そして、育成環境の中で仕事を進めていくことと、県内業界№1を自負する福利厚生を堅持することで、社員には「働きがい・生きがい」を感じてほしい、そして県内№1のディーラーとして更に成長していきたいと考えています。

〈学生に望むこと・期待すること〉

まず、大分大学の学生の皆様へは出来るだけ県内企業に就職することで大分県内に経済学部イズムを広めていただきたいと思います。

また「社会人として望むこと」には、４つのポイントがあると思っております。

１つ目は「時間」を守ることです。会社では始業・終業時刻が決められており「時間」を守らなければなりません。残業することもありますが、そこにも時間設定が必要です。時間に縛られるのは窮屈な感じもしますが、早く時間意識を身につけることが大切です。

２つ目は評価の違いです。学生時代は主に知識を覚え、その成果は試験という機会で評価されますが、社会人では必要な知識を覚えるだけでなく、それを仕事に活かして行動で実績を挙げなくてはなりません。

３つ目は人との付き合い方です。学生時代は好きな人や気の合う人と付き合っていれば良かったと思いますが、社会では年齢が異なる人や様々な考え方を持つ人など誰とでも円滑な人間関係を保たないと仕事が進みません。タテ・ヨコの複雑な人間関係の中で上手く人と付き合う能力が要求されます。

４つ目ですが、社会人は、会社が利益を挙げるために効率的な仕事の進め方やコストダウンなども考え、全体のことを考えて行動しなければなりません。学生時代は自身の成績を上げることを最優先にすれば良かったのですが、社会人は会社と自分、両方のことを考えながら行動する必要があります。

他にも色々とあると思いますが、申し上げた４つのポイントを念頭に置かれることが重要ではないかと考えています。そして、これからの日本を背負っていく「人材」になっていただきたいと思います。

〈100周年を迎えるにあたり〉

大分大学経済学部の卒業生の皆さんは各方面でご活躍されています。日本社会も大きく変革していく中で、今までの経済学部の「レガシー」を伝えながら「新しいレガシー」を築いていっていただきたいと思います。

令和４年６月25日、創立100周年を心よりお慶び申し上げます。

「会社研究」の講義を終えて

大分バス株式会社　代表取締役社長　高寄　和弘

高寄 和弘 氏

今年の２月はじめ、高見学部長がお見えになって、令和３年度四極会寄附講義「会社研究」での講師を依頼されました。大学を卒業して40年あまり、まさか私が大学で講義をするなんか考えてもいませんでした。大分を支える企業経営者に取り巻く環境や社会のことなどについて直接話を聞き、学生の社会人・職業人としての研鑽を積むことを目的としているということなので、講師をお引き受けしました。

講師を引き受けたものの、しばらくの間「60分程度の講義」が頭から離れず、何について話したらいいのか悩みました。

テーマを「大分バスのあゆみと公共交通機関としての役割について」（仮称）と決め、原稿づくりを始めましたが、なかなかまとまりません。そんな時、大学からコロナ感染防止により、講義は対面ではなくオンラインになるとの連絡がありました。オンラインとなったので、パワーポイントを使って説明した方がいいと思ったものの、何せアナログ人間なもので、今までパワーポイントを使ったことがありませんでした。そのため、原稿作りは大変苦戦をしました。

7月14日、いよいよ本番です。

最終的にテーマを「大分バスのあゆみと持続可能な地域公共交通構築への取り組み」として、当社のあゆみ、少子高齢化・人口減少社会の進展に加え、コロナ禍で厳しくなっている公共交通の状況や、地方のバス事業者の9割が赤字になっていることなどを説明しました。

公共交通を維持し、これからも変わることなく運行を続けていくには、地域のみなさんと一緒になって取り組んでいくことが必要不可欠であり、そのためにも、分大生のみなさんに月に1回でもいいからバスを利用してくださいとお願いをしました。

そして、学生のみなさんは、現在コロナ禍で大変不自由な学生生活を送っていると思いますが、コロナが収束したら今しかできないことをして、思う存分学生生活を楽しんでいただきたい。その中で、これだけは誰にも負けない、得意なことを身につけてくださいとして講義を終了しました。

この60分間の講義をするために、原稿作りなどいろいろと苦労しましたが、私にとって大変勉強になり貴重な経験となりました。ありがとうございました。

おわりになりますが、四極会のますますのご繁栄を祈念して、講義を終えた感想といたします。

地域の活性化と求められる人材像

大分みらい信用金庫　理事長　森田　展弘

森田 展弘 氏

大分大学経済学部の開学100周年を来年に控え、その記念事業の一環である寄附講義に登壇の機会を賜り、誠にありがとうございました。本来であれば、学生の皆さまの面前でお話ししたかったのですが、新型コロナウイルス対応としてオンラインによる講義となりましたので、充分伝わらなかった点もあるかと思いますが、ご容赦ください。

さて、今回は「地域の活性化と求められる人材像」というテーマで「1．地域活性化の課題とは何か」、「2．当金庫が地域の課題に対してどのように取り組んでいるのか」、そして「3．地域を活性化させていくために求められている人材とはどのような人材なのか」についてお話させていただきました。また、せっかくの機会でしたので大分大学経済学部開学100周年と同じく、来年、創立100周年を迎える大分みらい信用金庫のことや金融業界における信用金庫の独自性や使命についてもご紹介させていただきました。その他、豊かな地域づくりを実践するための大切な考え方として「ソーシャル・キャピタル」についてお話ししましたが、この「地域づくり」の基盤となるのは地域住民同士の「助け合いの精神」であり、「信頼関係」や「結びつき」といった「ご縁」を大切にしていくことに尽きると考えます。

学生の皆さまは、地域の抱える様々な課題やその背景、それを解決するための手段を学んでいることと思います。そうした知識をさらに深めていただくとともに、是非、様々な人々や組織とのつながりを今のうちに経験することで、地域を元気にする力を蓄えていただき、将来のリーダーに成長していただきたいと願います。そして講義の最後にメッセージとして「情熱にまさる能力なし」という言葉を贈らせていただきました。是非これを心の片隅に残していただき、社会と連携を図った実践的な教育を通じて、自ら考え行動できるチャレンジ精神と人間力を備え、何事にも情熱を持って取り組むことができる熱い人間になっていただければ幸甚です。

結びとなりますが、学生の皆さまの今後益々のご活躍と、四極会のご発展ならびに会員の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

授業風景

大分県内を回るツアーに参加を

四極会では１００周年記念式典が行われる令和４年６月25日に併せ４ツアーを実施します。

①六郷満山訪問ツアー

○６月24日　12時大分空港集合・出発→別府駅→宇佐神宮→富貴寺→17時大分駅前着

○募集人員40名（最少催行15名）

○参加費　６０００円（予定・昼食は各自でお取りください）

②母校訪問ツアー

○６月25日　９時大分駅前集合→上野丘校舎跡地→旦野原キャンパス→12時記念式典会場

○募集人数　80名

○参加費　無料

③臼杵石仏・城下町観光ツアー

○６月26日　９時大分駅前集合→臼杵石仏→臼杵城下町散策・昼食→15時大分駅前→16時20分大分空港

○募集人員40名（最少催行15名）

○参加費　８０００円（予定・昼食代含む）

④ゴルフ大会

○６月26日　８時　大分駅前集合　９時30分～15時30分プレー・表彰式→16時30分大分駅前

○プレー代　実費

※天候等の状況により変更となる場合がございますのでご了承ください。

参加申し込みは四極会事務局へ

全国の四極会員の皆さんを対象に以下の通り予約を受け付けますのでご参加をお待ちしています。

○希望するツアー名
○氏名
○住所
○連絡先（TEL・E-mail等）

（２名以上申し込む場合は人数及び代表者の住所、氏名、連絡先を記載）

を、ＦＡＸ、E-mailで四極会事務局あて**令和４年３月末まで**にお申込みをお願いします。行程表、参加費振込用紙等を４月以降に取扱旅行会社から送付いたします。

○申し込み先
ＦＡＸ　０９７-５２９-６６２３
E-mail　shiwasu@pd-b.ne.jp

○問い合わせ先
０９７-５３８-２４６２
（四極会事務局）

ホームページを活用しよう

会員名簿の閲覧が便利です

四極会のことなら、歴史から最近の状況まですべてわかる会員の情報基盤として、平成三十一年四月に四極会ＨＰをリニューアルして二年半が経ちます。百周年記念事業の一環として整備したものです。この間、事務局では常に新しい情報のアップに努めてきました。週に二、三回は記事を更新・追加しています。

今回は、ＨＰに掲載している会員名簿の活用について、皆さんにお願いしたいと思います。

従来、四極会では冊子の会員名簿を五年ごとに更新してきました。しかし、個人情報保護等の観点から、二〇一七年版を最後に印刷を終了しました。その代わり、名簿はＨＰで閲覧できるようにしました。

ホームページ版のメリットとして、ＩＤ、パスワードを設定して会員以外の閲覧ができないようにし、セキュリティー保護が強化されたこと、毎年更新するため常に新しい情報に接することができるようになったことが挙げられます。また、五千円という高額な冊子をお求め頂く必要もなくなりました。

ＨＰには、卒業回期別名簿をベースに、人名のアイウエオ索引、勤務先別索引、支部別索引が付いています。知人の消息を知りたい場合はもとより、同期会や支部の活動に活用されるよう、お願いします。

なお、会員名簿の閲覧に必要なＩＤ、パスワードは本部で厳重に管理しています。四極会費を納入されている支部を経由して申請していただければ、申請者宛てに郵送します。

本番は来年6月25日

記念式典　午後1時半～

祝賀会　午後6時半～

大分大学経済学部創立１００周年記念式典は、２０２２年６月25日（土）に「ｉｉｃｈｉｋｏ音の泉ホール」およびホテル日航オアシスタワーで開催されます。13：30から記念式典、15：30から記念講演、18：00からは記念祝賀会を予定しています。

実行委員会を中心に万事、順調に準備がなされています。コロナ禍の状況の中、会場の使用状況がどのようになるかは、予断を許しません。皆様に安心して出席いただけるように全力で進めて参ります。

iichiko 総合文化センター（大分市）

安部龍太郎氏の講演会も

午後3時半～

心待ちにする大分県民

安部龍太郎氏のプロフィール

- 昭和 30 年（1955 年）福岡県八女市に生まれる
- 東京都大田区役所に就職、後に図書館司書を務める
- 1990 年に発表の「血の日本史」でデビュー
- 2013 年「等伯」で第 148 回直木賞受賞
- 2016 年、大分合同新聞に「宗麟の海」を連載
- 日本経済新聞に「ふりさけ見れば」を連載中
- 作品に「彷徨える帝」「関ケ原連判状」「信長燃ゆ」など多数

門出を祝う１００周年に相応しい講演会にしようと早くから準備してきました。

直木賞作家の安部龍太郎氏にお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。

大分合同新聞に一年間連載された「宗麟の海」が大変好評で、大分県民を始め、多くの人に愛読されたとのことです。

幼少のころから心臓の病を患う病弱な宗麟を支える周囲の屈強の武士たち、そして宣教師ザビエルとの出会いが宗麟を世界へと花開いて行かせます。ぜひ一読を。会場は「音の泉ホール」

なお、四極会の会員のほか、一般市民の皆様も聴講されます。ご了承ください。

100周年を迎える経済学部

経済学部長　高見　博之

高見 博之 氏

ついに経済学部創立１００周年を来年に迎えることになりました。四極会のみなさま、１００周年事業実行委員会のみなさまのご尽力に感謝申し上げます。

経済学部の前身である官立大分高等商業学校は、１９２２年に全国で８番目の高等商業学校として設置されました。その後、戦時体制のもと44年に大分経済専門学校と改称され、戦後49年に学制改革により新制大分大学経済学部として経済学科と経営学科が設置されました。この間の学部の歴史を扱った『大分大学経済学部50年史』（１９７４年発行）では、具体的な卒業生名や役職名が記載され産業界、官界、学界・教育界、会計士・税理士など企業別、組織別に卒業生の詳細な活躍状況が確認でき、経済学部の伝統を実感することができます。平成に入り94年に地域の再生を巡る議論のなかで地域を基軸として地域社会の求める人材を養成する３つ目の学科として地域システム学科が設置されました。２０１７年に４つ目の社会イノベーション学科が設置され、２０２１年春に最初の卒業生を送り出すことができました。

経済学部内に掲げられている 100 周年記念の垂れ幕

新型コロナウイルスについて、大分では７月には新規感染者がゼロや一桁が続き、経済学部ではゼミを中心に対面授業が可能となり、前期試験も対面形式で実施する科目もありました。その後、大分県内でも新規感染者が急増し、８月下旬には１日の感染者が２００名を超える状況でした。大学では学生は夏休み中の課外活動も禁止され、家族以外との会食も自粛となり、学生らしい生活を送りにくい大変厳しい状況です。一方、大分大学でも８月10日より大学拠点接種が始まりました。10月からの後期の授業開始後もしばらくは原則、オンラインの授業が続きます。学生のみなさんにも学業面でも生活面でも制約のある状況は続きますが、この状況であるからこそ考えること、実行できることに心を砕く機会になればと考えるところです。

コロナ禍でも１００周年記念事業実行委員会を中心に記念事業は着々と準備が進んでおります。記念事業として、経済学部で最も大きな教室である２０２号教室は９月末、明るく華やかな雰囲気に改装されました。また、一足早く８月末に経済学部の区画の北西の位置に１００周年記念公園が完成いたしました。旦野原キャンパス構内のバス停から保健管理センターを左手に見ながら経済学部棟に向かって歩きますと見えてまいります。以前は緑豊かな内庭でしたが、視界が広がり空も見えるとても開放的な明るい公園に姿を変えました。

１００周年事業によりキャンパス内が大きく変わることは、現役学生のことを思い将来を期待されている四極会の先輩方の存在をより身近に感じられる契機になるものと思います。学部としてもできる限りの活動を続けてまいります。四極会会員のみなさまにおかれましては、引き続き母校へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

周年

思えばよくぞ来たもんだ！

ひと味違う募金への協力

東京四極会 理事長　奥川　隆生（大23）

奥川 隆生 氏

東京四極会の奥川です。東京の連日の感染者数は８月中旬をピークに減少傾向に入りましたが、何が主因で減少に向かい始めたのかについては専門家ですら確たる解析に行きついておらず、たえずリバウンドの発生と病床不足に対する不安を抱えながらの生活が続いています。首都圏での累積感染者数は依然、高水準で身近な人たちの感染がもうそこまできている恐怖が実感としてあります。ヒトとの距離を置かなければいけない、あるいは遮断しなければいけないコロナ対策は、同窓生の絆を育む同窓会活動にとって一番の弱みを突かれた感があり、東京四極会も、昨年２月以降、実質的な活動を凍結せざるを得ませんでした。

活動凍結期間の間に、新年会を１回、総会の開催を２回見送ってしまいました。四極会会員の皆さん同士の対面による交流機会も激減しているので、皆さんの動静を案じながらも、こういう時期に、思った活動ができない悔しさが消えません。一時、感染者数の勢いが弱くなり、ワクチン接種の社会的な準備が始まった７月頃には、今秋には何かしらのリアルな活動ができるのではと心を躍らせましたが、デルタ変異株は今のところその期待を真正面から封じ込めています。コロナウイルス対策は長期視線で考えて、あまり悲観論に浸らず、人類の英知と逞しさに託していくとして、活動再開に向けた準備は粛粛と進めていきます。リアルでもオンライン会議を交えたものでもいいので、まずは、役員の会合や総会・懇親会の開催をめざしたいところです。

コロナ禍に思うこと

関西四極会 会長　大石　哲史（大22）

大石 哲史 氏

コロナ禍で東京四極会の活動がもたついている中で、学部創立１００周年もいよいよ来年に迫ってきました。残すところすでに１年を切っています。私は１００周年を祝うと同時に、ポスト１００周年の母校や四極会活動の道筋を考える契機として考えるべきと思っています。東京四極会の会員の多くの皆さんには、関東地区でそれぞれの環境で仕事をして、また生活をして１００年の歴史の一部を支えてきた思いと母校への感謝があると思います。それが募金の結果に確実に反映されています。東京四極会は、関東地区に広範囲に生活をしている会員で構成するだけに、多数の意思をまとめるには苦労する特性がありますが、今回は、普段の東京四極会活動に積極的に参加いただいていない方々から多くの募金が受け付けられています。「サイレントサポーター」の皆さんが久しぶりに思いを形に出していただいたことは本当にありがたいことです。まだ募金の最終目標達成に向けては途上で、引き続き様々な運動を継続しますが、このように、いつも以上に多くの会員皆さんの強い思いを受け止めたことは、私にとって１００周年記念行事の取り組みの副次的な効果となりました。そして、活動をどうしても本格的に再開して同窓会の歴史をリレーしていこうとする東京四極会執行部の動機付けになることは確実です。

新型コロナによって翻弄されたこの一年半、世相は一変、まさに時間が止まってしまいました。当会では定例の総会に加え同好の士による囲碁部会や史跡などを巡る歩く会の諸活動及び月１回の気儘に集まり気儘に酔い語らう四極会サロンも全て休止を余儀なくされました。一方、当会活動の推進エンジンともいえるゴルフ部会では例年、年２回のコンペを行なっていますが２０２０年６月は中止も９月には感染対策をしっかり講じて実施。本年７月も10ヵ月振りに開催にこぎつけ４組16名の参加をいただき何とか一筋の光が差し込んだ思いでした。しかしながら、同窓会活動の「輪」と「和」を拡げようとスタートした「関西ゴルフ三経戦」は２０１９年６月に第一回（大分大幹事かつ優勝、参加42名）を盛大に開催、次回（山口大幹事）もと意気込みましたが残念ながらこちらはこの２年間休止中。そのほか、当会における変化と言えば定例の幹事会をリモート会議にシフト、加えて幹事有志のオンライン飲み会を行なっていること位でしょうか。とにかく「繋がる」ことが一番大事と日々腐心している状況です。

さて母校創立１００周年が間近となりました。四極会会長はじめ１００周年記念事業実行委員会を中心に大学と一体となり入念な準備を進めてこられたことに改めて敬意と感謝を申し上げ、全ての事業が成功裏に終わるよう祈念しています。１００年はあくまで通過点、次の１００年への布石を打つ証としての意義は大きいもの。因みに産業界における我が国の１００年企業は約３万３千社。これが２００年企業ともなると１千３百社にまで絞られます。一概に大学の存続との対比はできませんが生き（勝ち）残ると

100

おれたちの青春そのもの！

いうことの厳しさは同じこと、100年の重みは相当なものです。

そんな中、現代はデジタルネイティブのZ世代が大学生活を過ごした既に社会に巣立っています。いずれはα世代へと続く訳で、このような世代の変化は決して見逃せません。100周年を契機に母校がより魅力と存在感ある大学として是非とも変革を進められることを願いつつ私たち関西四極会も新たな世代をしっかり取り込んでいけるよう同窓会の未来を変えていく心意気で本部とも問題意識を共有しながら切磋琢磨したいと考えています。

最後に、2025年には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開かれます。関西はオモロイ！今後卒業される方たちの関西での就活を会員一同が待望しているところです。

ヤキモキした娘の結婚式

広島支部長　小山　文人（大37）

小山 文人 氏

広島支部の小山です。コロナ禍で2年間支部としての活動が全くできない中で、『各支部はいま？』というテーマでの寄稿をご依頼いただきましたがなかなか筆が動かず、たぶんその様子を察したのでしょうか、締め切り間際に四極会事務局の大園さんから『進んでますか？』との留守電をいただき、やっとパソコンの前に座った次第です。さすが大園さん、お見通しですね。広島支部はこれまで年2回は会合を開き親交を深めてきましたが、もう一年半以上催しができない状態が続いており、会員の皆様には大変ご無沙汰し失礼しております。この場を借りてお詫び申し上げます。

広島の感染状況も一向に収まる気配がありません(8月現在)。もはや医療の逼迫も他人事とは思えなくなってきております。救える命はなんとしても救っていただきたいと医療従事者の皆様にただただお願いするばかりです。医療への負荷を少しでも抑えるため、各自の感染対策は徹底したいものです。このような中、私事ながら娘の結婚式が近々控えており、1年間式を延長したため再延長は難しく、コロナ禍でどんな結婚式をするのか、現在ギリギリまで両家で話し合っているところです。一生に一度のことだからできるだけ普通の結婚式をあげさせてやりたい親心もありますが、今回ばかりは仕方ありませんね。今できる精一杯のことができればいいかなと思っています。

そんな中、オリンピックは楽しませてもらいました。個人的には前半は柔道！メダルを取っても取れなくてもテレビをみて号泣の日々でした。なぜか涙が出るのです。まるで自分が練習を積んできたような気持ちになれるのです。ソファに寝転んでポテチを食べながらですが・・・。後半は野球ですね！特に決勝戦は森下・栗林のカープの若手投手が試合を作ってくれました。圧巻の投手陣です。でも後半戦もカープは勝てません。不思議です・・・。

経済学部100周年に向け多くの方がご尽力頂いていることと存じます。誠にありがとうございます。オリンピックは間に合いませんでしたが、100周年大会の折にはコロナを人類が克服した記念すべき大会となるよう心からお祈り申し上げております。

残された力を活かして

山口・防府支部長　清澄　邦夫（大6）

清澄 邦夫 氏

私は現在、「企業は人なり」の考えのもと、社労士業を48年間にわたり経営し、委託先企業の発展に尽くしております。

現在は、この社労士業を通して、国が提唱している「働き方改革」取り分け労働時間や年次有給休暇、正規・非正規の壁を取り外す「同一労働、同一賃金」そして安全管理などに取り組んでいます。

時計を逆転してみると、40年前の1980年時代、日本経済は黄金期で、バブル経済の最盛期でした。土地の急激な値上がり、人手不足のため賃金が大幅にアップしました。

10年後の1990年代は、バブルがはじけ、追い打ちをかけるように阪神大震災。さらに10年後の2000年代にはリーマン・ショックにより、経済は世界的に大不況に突入。就職難の若者が増え、現在の非正規労働者の中で高い比重を占めています。

夜の街では、昨日のユメを追いかけて、酒を呷った姿があちこちに見受けられました。

さらに下って2010年代、東日本大震災で今なお、復興の光が届かず、苦しんでいる多くの方がおられると聞いております。

10余年後、(2021年)、令和天皇が即位されて3年。

昨年初めに、発生した新型コロナ・ウイルスの世界的蔓延により、経済活動や文化活動は、中断。モノもヒトも動かず不透明な状態が続いています。

国は、雇用の維持のため多額の資金を投入しています。

その中にあって、「東京2020オリンピック」が終わり、続いてパラリンピックが行われました。

私自身、この仕事をあとどの

くらい続けられるか分かりません。

パラリンピックの精神「失われたものを数えるな。残された能力を最大限に活かせ」の考えを心に、前へ進んでいきたいと思っています。

『密』にならない同窓会活動はあるの？

福岡四極会 会長　待井　弘道（大27）

待井 弘道 氏

本部からの会報「四極」への投稿依頼。内容は「各支部の今」～コロナ禍の支部の現状とこうしてコロナを乗り切ったというエピソードを～　とのこと。

「まずいテーマやなぁ」「全く乗り切ってないし」頭が痛い。ついつい、伸ばし伸ばしになり〆切の8月20日を迎えてしまった。奇しくも福岡県に4回目の緊急事態宣言発出の日。四極会本部からの原稿督促の発出も。かくなる上は、現状をありのままに書くしかあるまい。

２０１９年９月30日、福岡支部新役員顔合わせ会議を開催。この時は、12月に中国武漢で発生する新型コロナウイルスのことなど知るはずもなく、「来年４月の支部総会は十数年ぶりに１００人台の出席者を目指そう」とか「もっとＳＮＳ等を利用しないと」とか「女性会員への働きかけもしたいなぁ」などの意見交換をし、その後、今では考えられない飲み会へと流れていった。以降、２０２０年１月上旬に恒例の「九州交響楽団の夕べ＆懇親会」の開催を最後に、一切の支部活動を休止している。唯一行ったのは、福岡地区ゴルフ三経戦の３大学担当者打合せであった。１回目の緊急事態宣言が解除された後に開催し、その場では10月の開催を目指そうということになった。各大学で参加者の募集までは行ったものの、再度、新型コロナウイルス感染者が増え始めてきた。迷ったが、表彰式なしで、ゴルフ大会だけを開催しようとしていた。そこに山口大学鳳陽会の重鎮の方から「ゴルフ三経戦のメインは表彰式」「表彰式が出来ないのであれば、この時期無理して開催する必要はないのでは」とのサジェスチョン。（※表彰式では優勝校のみが校歌を合唱でき他大学参加者はそれを称える）ということで、第27回（27年目）ゴルフ三経戦は次年度に持ち越しとした。（残念ながら今年も緊急宣言の中、再度の延期となった）

考えてみれば、ゴルフ三経戦しかり、同窓会の行事は「密」になってこそ成り立つ。来年は密になっても大丈夫な年となるのだろうか？答えは分からないが違う形の同窓会行事を模索していかなくてはならないのかも。

また、福岡支部では、従来、年次総会や各種行事で、本部・支部の現況や各自の近況報告という形での情報発信しかできていなかった。思うように行事が出来ない・集まることが出来ない中での情報発信の在り方が喫緊の課題であると痛感している。

年会費の値上げを決定

北九州支部長　久保　恵一（大21）

久保 恵一 氏

令和３年３月17日開催の幹事会で、板橋前支部長の後任として支部長に選出され、６月実施の紙上総会議決により就任いたしましたが、コロナ禍の中、現状含む今後の運営に大変苦慮しております。

支部の幹事長として、90周年の前から10数年、会の運営に携わっておりますが、この２年間、支部総会や各種イベントが開催できず、さらに、北九州支部として集める四極会年会費も急激に納入が減少しており、毎年本部に収める10万円にすら届かない極めて厳しい船出となっております。

以下、３項目に絞って、現況を申し述べます。

１．支部運営の要である「年会費」について、令和４年度から値上げ実施

ここ４～５年、年会費納入が年々減少化傾向にあり、このままでは支部運営に支障を来たす状況になると判断し、「令和４年４月からの年会費値上げ（２千円→３千円）」を、紙上総会の議題として、令和３年四極春号配布時に諮り、賛成多数で了承されました。

２．「大分大学合同同窓会」のさらなる発展を

「ワン大分大学同窓会」を目指して、医学部同窓会「玉樹会」と合同で同窓会を開催して、本年で10年目になります。途中工学部や教育学部からの卒業生参加を模索し、数名単位での出席もありましたが、組織や人で引き継げずに、結果ほぼ２学部のみの合同で実施しています。

■合同同窓会を運営してきての《提言》

現在、大学にある産学官連携推進機構「大分大学同窓会連合会」から、「さらに進化した組織名称」の設立を望みます。例えば、①ＯＵＡＡ（Oita University Alumni Association）②宗麟会　などです。

それは、各学部の誰もが一見して分かる「大分大学同窓会の名称」にすることにより、大学同窓生や関係者が公平な気持ちでの参加が可能となります。ひいては、法人化した大分大学の存在価値向上・連帯感にも繋がると考えます。

３．コロナ後の対応について

①役員改選後の新スタッフによる「職域訪問」実施

北九州支部の組織として「職域幹事」を設けましたが、機能しておりません。

次年度には、手分けして職域

100周年とはすごいことだよ

訪問し、支部としての組織固めをしたいと考えています。

②「若手から意見を聴く会」を実施し、今後の同窓会の在り方を模索

いつの時代も同窓会へ若年層の参加が叫ばれていますが、新体制になったことを契機に、今後の同窓会の在り方を、若手にヒアリングしてまいります。

１００周年に募金された方、年会費の支払いをされた方など、まず同窓会に意識・関心のある方をピックアップし、意見収集を図ります。

龍馬の会が全国で次々誕生

大分にも龍馬会が発足。全国で 209 番目

「全国龍馬会」という組織がある。明治維新の立役者で、幕末の志士・坂本龍馬のファンが集まる会。全国の企業や自治体が参加していて現在２００を超える団体がある。四極会の関係者もリーダーとして頑張っています。今回は3組を紹介します。

①福岡にＪＲ九州龍馬会がある。全国１４１番目。会長はＪＲ九州の青柳俊彦社長。青柳氏は、経済学部１００周年記念事業の「経済トップセミナー」で講演をしていただく予定です。

②愛知県には三河龍馬会。全国１８８番目。理事長は信原玲子さん。信原さんは大分県豊後大野市生まれで、竹田高校から大分大学教育学部を卒業、長い間学校の先生をされていた。夫の眞治さんは同大学経済学部を卒業（大21）、同会の事務局長をされている。

③大分県でも「大分龍馬会」が発足した。全国２０９番目。５月末に大分市で設立総会が開かれ、メンバー14人が出席。会長に同市佐賀関で和菓子店「水月堂」を営む高橋幹雄さん（55）が選ばれた。高橋さんは大分大学大学院36期生。

青柳 JR 社長

信原玲子さん

12000枚のマスク寄贈

名古屋の信原さん

7月29日にＮＰＯ法人三河龍馬会の信原玲子理事長（教育学部卒業）及び信原眞治事務局長（大21・名古屋支部）が来学され、教育学部並びに経済学部に対し、１万２千枚の不織布マスクを贈呈されました。

今回のマスク贈呈は、新型コロナウイルスの感染が終息しない中、卒業生のお二人が後輩の学生達に新型コロナウイルス感染予防対策の一助になればとの思いから実現したものです。

贈呈式では、信原玲子理事長から学生時代のことや龍馬教育のこと、また、後輩への激励の言葉などの挨拶後、マスク寄贈の目録贈呈が行われ、高見経済学部長が謝辞を述べた。引き続き、経済学部・真砂海翔（３年生）さん及び教育学部・彦坂珠世（４年生）さんからも先輩からのマスク寄贈に対し感謝の言葉が述べられました。

今回贈呈いただいたマスクは、教育学部及び経済学部の学生のために活用されます。

贈呈式に出席した関係者

四極文芸

短歌

木山　廣喜（大分市・大10）

ワクチンの予約はできたか打ったかと
ステイホームの八十路の友ら
プラカード持つ群衆を銃で撃つ
パゴダの並ぶ仏の国で
バッグ持ちお店の前でハッとして
車へ戻るマスクを取りに

山邊　幹生（大分市・大16）

白ズボン青翻る衣装かな
美しき君青ザイの君
ガンジーの意志の如くに火の燃ゆる
建国の志に祈りは深く
着飾りてさっそうと行くサリーの娘
スラムに消ゆるしかも素足で

清水　紘一郎（大分市・大17）

黴臭き学生時代の教科書を
吾がそと共に虫干ししたく
蜻蛉飛文字の見えないバス停や
廃田多く草の楽園
根白草春の七草一番手
御浸し旨し夕の一菜

次森　久雄（大分市・大23）

耶馬渓の遊歩道を妻と行く
若葉もみじの緑はまぶし
滝のごと花穂を垂らす藤棚や
下にひととき妻と佇む
一花ずつ顔を近づけ園内を
そぞろ歩きの花菖蒲園

俳句

和田こうせい（康生・大分市・大２）

釜出しのピザ香りくる青葉風
聖火リレー山内流の立泳ぎ
林立の肩張るクレーン夏埠頭

首藤　健児（東京都練馬区・大３）

かなかなや鉄鎖錆びたる大空家
夏帽や女の子とも男の子とも
鉄橋を渡りふる里青田波

柚﨑　博（広島市・大５）

初登山　筋湯温泉　青葉風
濃竜胆　摘む初ゼミナール　扇山
きりしまや　満山揺れる法華の湯

利光　征四郎（大阪市・大11）

ワクチンが心を癒す八十の夏
疫禍執拗二歳の夏棒に振り
感染された人数目で追ふ朝刊紙

湯浅　喬（大阪市・大11）

ぼうたんの散りて我が身も軽くなり
木蓮に吾が立ち姿正しゅうす
嶺は紅深山霧島坊がつる

野井　英雄（伊予市・大14）

蜩の声透き通る杉並木
空に朱を一つ残すや木守柿
大都会無人のビルの初景色

芋岡　勝一（臼杵市・大15）

稲架掛けて夕日の里となりにけり
御神木より神苑の初紅葉
遺跡巡りして零余子飯炊きにけり

小林　康祐（さいたま市・大16）

雨上がりつくつくぼうしの世界かな
秋の風さざ波作る湖面かな
参道や秋立つ風吹き渡る

清水　紘一郎（大分市・大17）

黄砂消え由布と鶴見が近く見え
月見草白から紅へ花変化
夏霞山望洋と横たわる

坂井　進（広島市・大18）

流星を数へてみたく夜の海
ほろ苦き腹を好みて秋刀魚喰ふ
秋惜しむ湖畔の白いカフェテラス

野田　初男（広島市・大19）

桜散る示しあはせしごとく散る
線に乗るテニスボールや風光る
その花の揺れぬ時ありお花畑

川柳

糸永　文雄（別府市・大2）

結実の年を迎える百周年
風鈴の音色も冴える夏の午後
サル社会ついに誕生女性ボス

城元　保昭（大分市・大7）

雌伏五年地味な努力が金つかむ
美しい地球を守る脱炭素
一子相伝秘伝踏襲冴える技

山本　新一（福岡・桂川町・大8）

アーンして昔ラブラブ今介護
手をつなぐ昔はデート今介護
虫歯など無いと入歯を出して見せ

本多　廣（大分市・大12）

新涼が　疲れた肌を　そっと撫で
田んぼ道　真っ赤に燃える　曼珠沙華
コロナ情報　一喜一憂　棒グラフ

清水　紘一郎（大分市・大17）

終日を寝たり起きたり又寝たり
マグカップ桜浮かべて花見する
桜桃花（先咲）葉あと赤い実に

漢詩

森田　元久（東京都・経専23）

桜雲漠漠覆池畔　桜雲漠漠池畔を覆い
香雪紛紛舞半天　香雪紛紛半天に舞う
黄鳥飛来弄嬌舌　黄鳥飛来嬌舌を弄し
赤魚溌剌揺清漣　赤魚溌剌清漣を揺がす

さぶちゃんの突撃インタビュー ―㉔―

下関支部長　杉山 輝雄 氏（大11）

尊敬する支部のリーダー

①支部長になって何年目になりますか。

平成21年（２００９年）10月の支部総会において、前支部長の故・小田明（大２）さんの後任として支部長を拝命しましたので、今年の秋でまる12年になります。就任当時は小田さんをはじめ元気な先輩諸氏が多数おられましたので、支部総会や役員会などの諸会合、また創立90周年記念募金等についてもご協力いただき、支部運営もそれほど苦労はありませんでした。

その後時代も代わり、当下関支部も上野丘世代の卒業生が減り、平成以降の卒業生が50％以上となりました。最近では、若年層の支部総会参加数及び年会費納入者数が減少し、今後の支部運営をどうすればよいか悩んでおります。

②支部総会はどうでしたか。

国内のコロナ感染者数が下げ止まり、新型コロナ禍が収束する気配が感じられない状況の中で、昨年から支部総会の開催をはじめ諸会合はすべて中止しております。

来年の母校創立１００周年記念事業への取り組み、支部会員各位への呼びかけ等についても役員の皆様に相談も出来ず、困惑の日々を過ごしております。

③東京オリンピックはいかがでしたか。

前回の東京オリンピックは、母校を卒業しサラリーマンとなった翌年（１９６４年）の開催でしたが、当時は新入社員として会社の仕事や私事で忙しくてほとんど記憶がありません。今回はラストチャンスと思い延期が決定するまでは是非一度観戦したいと思っておりましたが、作今の新型コロナ禍の情勢で実物観戦は断念せざるを得ず、テレビまたはスマホを利用することにしました。そのためスマホ教室に通って「東京２０２０オリンピック・パラリンピックを楽しもう」を教わりました。

④学生時代、社会人生活、両方を教えてください。奥様との出会いなどエピソードがあれば…。

学生時代は昭和34年入学直後上野丘キャンバスの講堂で行われていた「マンドリンクラブ」の新入生歓迎演奏会でその音色に魅せられて「マンクラ」に入部して、卒業まで「マンクラ」に所属して、その間先輩、同僚、後輩の諸氏に恵まれ、助けられて楽しい、極めて有意義な学生生活を過ごしました。

一方、社会人生活では昭和38年卒業と同時に某メーカーに採用され、入社直後山口県下関市の工場に配属され、職場は経理課で製造物（鋼船、甲板機械等）の原価計算および管理会計の仕事でした。入社直後は電卓やコンピューターも無い時代で、何百枚もの伝票を「そろばん」で計算する作業を朝から晩までさせられた記憶が懐かしく思い出されます。その後コンピューター導入、東京本社経理部への転勤等も経験して、平成16年にサラリーマン生活を卒業しました。

女房とは入社直後配属された下関工場の職場で知り合い昭和39年11月に結婚し、別府温泉への新婚旅行で後輩達の「マンドリン演奏会」を聴いたことが記憶に残っております。その後２男２女の子供達にも恵まれ、これといったトラブルもなく、妻ともども現在健康に過ごしております。

⑤ゴルフがお好きと聞いていますが…。

昔から「下手の横好き」と言

杉山輝雄氏のプロフィール

１９４１年　台連市で出生（満州からの引揚者で満80歳）
１９６３年　大分大学経済学部卒業、
　　三菱造船（株）（現三菱重工業㈱）入社
１９９０年　関門ドックサービス（株）
　　（三菱重工１００％出資子会社）出向派遣
１９９５年　同右　取締役業務部長就任
２００１年　同右　取締役業務部長解任、同顧問就任
２００３年　山口県求職活動支援室長就任…退職

募金達成に苦労の連続

募金をリード　玉井 鉄之 氏（大25）

われますが、他に趣味もなく、能力もないので、腰痛回避・健康維持のために、月に3～4回、同好会（老人の集まり）のプライベートコンペに参加しています。また近くの練習場へ打ちっ放し練習にも通っています。最近のスコアは100を切るのに四苦八苦しております。

⑥100周年への思いは？

今まで「創立××周年記念行事」等々については殆ど興味なく、気にもしていませんでしたが、10年前に「母校創立90周年記念式典」に出席して、四極会の先輩諸氏および同窓生のご支援・ご協力がいかに偉大であったか、また重要であるか、を痛感しました。この度100周年を迎えるにあたり、これからますます社会環境が厳しくなる中、我が母校が学校法人として今後ますます成長して、その存在価値を高めていくために、四極会はどうあるべきか、どうならねばならないか、非常に難しい課題を抱えていると思います。大学、四極会他関係諸団体が連携・協力してこの難関を乗り越えなければなりません。

それはさておいて、今回の100周年記念行事には個人的には前回同様に是非参加したいと思っております。

現時点では「100周年記念ツアー」の「母校訪問ツアー」と「臼杵石仏・城町観光ツアー」にエントリー出来ればと考えています。

①ご出身は？

豊後大野市三重町の出身です。三重中学校1年生の時に大分市に引っ越しました。三浦洋一四極会会長代行とは、三重第一小学校、三重中学校の同級生でよく一緒に遊んでいました。どちらかというとおとなしく目立たないふつうの子供でした。

②学生時代はどうでしたか？

大学の授業はさぼり、勉強もせずサッカー、酒、麻雀、パチンコにあけくれた学生時代を送りました。当時ではまれな留年（2年生から3年生に進級できず）を経験。母親からやかましくそして泣きながら説教されたのを覚えており、今でも申し訳なく思っています。

自宅通学でしたが、男子寮（紫岳寮）の先輩方にはかわいがっていただき、サッカー部の先輩には毎晩、都町で酒をごちそうになり、いろんな人生勉強、経験をさせていただきました。

なお、当時の都町屋台ではビール大瓶180円、日本酒（二級酒）1合60円でした。

この時の経験が、就職してからの銀行員生活、そして現在の仕事にも大変役立っています。

5年かけて「経済学部」を卒業できたのも、当時の先輩、同級生、後輩のおかげだと今も深く感謝しています。

③豊和銀行に入行してからの苦労話など。

昭和52年4月、大分市王子中町に本店のある「豊和相互銀行」に入行しました。当時は池田社長をはじめ、役員のほとんどの方が四極会出身であったと記憶しています。銀行役員でありサッカー部OBの富屋公平先輩から、サッカー部顧問であった平野稔先生に「元気のいい学生はいないか」との話があり、全くのご縁によりコネ入社した次第です。役員面接では勉強不足で何も答えられずに"頑張ります"と気合のみで何とか合格したようです。

入行後は企画部を振り出しに、20～30代は預金獲得、途中5年間は従業員組合に専従、そして40～50代は金融自由化の嵐の中で融資増強、そして50～60代は本社、関連グループ会社勤務と40年間豊和銀行にお世話になりました。

本当に感謝しかありません。

④今も現役で頑張っていますね。

ご縁をいただき平成28年10月より大分市今津留に本社のある業務用酒類卸、そして小売業「酒のチャップリン」4店舗を経営する㈱舞鶴酒販で30名の社員とともに現役で働いています。昨年創業40周年を迎えました。

学生時代に鍛えた"酒"の勉強が大いに役立っています。

⑤大学卒業45年を振りかえっての想い。

(1)よき先輩、友人、後輩そしてご縁をいただいた多くの人にめぐまれたこと

(2)大学5年生から付き合いの始まった妻（美恵子）、そして家族の娘、息子、孫5名との出会いに感謝

(3)人縁、地縁を大事にし、営業情報と人脈をフル活用、"ありがとうを集める"仕事をしてきたこと

⑥募金委員長として苦労が多かったと思います。振り返ってみていかがですか？

平成29年10月石川会長の「募金委員長を命ず」により募金活動スタート。コロナ禍ではあったものの3,000名以上の四極会会員、法人先のご協力、ご支援を頂き、目標1億3千万円は達成しました。来年3月の締めに向けて1億5千万円まで積み上げ、有終の美を飾りたいと思っています。多くの皆様のご協力に深く感謝しております。

評議員会・支部長会議

初めてオンラインで開催

20人が一人ひとり発言

第13回評議員会・全国支部長会議が7月3日15時から経済学部会議室で開催され、県内外の多くの支部長さんが初めてオンラインで参加しました。

石川会長、高見経済学部長の挨拶に続き、令和2年度事業報告、決算報告、令和3年度事業計画案など10の議案が提案され承認されました。

会議には、東京四極会の奥川理事長をはじめ県外から11名の支部長、監事、県内からは9名の支部長がオンラインで参加しました。コロナ禍で昨年は会議を開けず、画面上ではありますが久し振りにお互いのお顔を見ることができ和気あいあいとした雰囲気のオンライン会議となりました。最後に、各支部長さんから四極会への期待、激励をいただきました。WEB会議の開催に当たり、大分大学支部長でもある渡邊博子経済学部教授のゼミ生、渡邉菜々美さん（4年）、力武愛野花さん（4年）にご協力いただきました。

ひき続き17時からは四極会の第33回理事会が開催され、石川代表理事（会長）をはじめ各役員が選任されました。

なお、令和4年6月の経済学部創立百周年への新体制については、四極会事務局長に柴田宏二氏に替わり荒川孝二氏が就任、新事務局次長に是永弘実氏が新たに就任しました。柴田氏は会長特別補佐として事務局を助け、高橋秀武事務局次長、大園広子主任とともに5人体制で百周年に向けた準備を進めます。

それぞれの支部からオンラインで参加

一般財団法人四極会　理事・監事（新名簿）

令和３年７月３日

	役職名	氏　名		回期
1	会長	石川　公一		大13
2	名誉会長	相良　浩		大12
3	相談役	山口　勇	新任	大10
4	会長代行	三浦　洋一		大24
5	副会長	髙井　道晴		大21
6	副会長	大石　哲史		大22
7	副会長	奥川　隆生		大23
8	副会長	待井　弘道		大27
9	常務理事	荒川　孝二	新任	大26
10	常務理事（非常勤）	渡邊　博子		大36
11	理事	野々下　俊昭		大12
12	理事	帆足　三郎		大13
13	理事	足立　一馬	新任	大19
14	理事	玉井　鉄之		大25
15	理事	髙野　浩子		大34
16	監事	板橋　紘平		大15
17	監事	木本　英光		院1大13
18	監事	佐々木　信之	新任	院9大33

創立100周年記念募金者

令和3年4月1日～9月30日

金額単位　1,000円

卒業回	氏名／団体	金額
経27	安藤典昭	30
大04	豊永恵盛	10
大07	石尾雄幸	10
	中川光	10
大08	秋吉正宣	10
	岡田昌也	30
	木村顕	10
	小形早喜	20
	工藤元昭	10
大09	山本治	20
大10	佐藤正	10
	関正明	20
	田口栄二	20
大11	上野裕司	5
	梅谷覚雄	10
	大部昌弘	30
	田嶋孝至	10
大12	佐藤泰久	100
大13	木本武士	10
	別所勝明	10
大14	森修吾	10
大15	岡村豊	10
	柏木茂	50
大16	赤塚晴彦	10
	三浦正忠	10
大17	清水紘一郎	10
	武重定	10
	古木豊美	30
	和田正彦	10
大18	松井一博	20
大19	岡崎徹	10
	中村均	10
	堀正和	7
大20	椙木康文	10
	松浦隆志	10
	蓑津博	10
大21	佐藤博敏	10
	橋本好正	10
	山田博孝	20
大22	勝又一俊	100
	野崎豊孝	10
大23	佐藤啓二	10
	渡邊礼子	10
大24	岩尾泰彦	10
大25	岩尾茂樹	50
	金城博光	10
	小谷弘幸	10
	後藤博文	10
	小西和昭	10
	豊東裕治	10
	吉田節生	10
大26	荒川孝二	20
	加藤亮	10
	松尾芳昭	30
大30	玉方政行	10
大32	小川久雄	30
	郷慶次	10
	高橋芳江	50
	町田憲治	10
大33	小河裕宣	10
	末松広之	30
	細谷俊郎	10
大34	熊谷光顕	30
	八坂紀美恵	10
大35	矢野美穂	10
大37	高橋幸男	20
	真野つぶら	10
大41	千葉史	10
	初瀬克己	10
大42	加藤茂幸	10
	吉田有宏	10
大43	岩崎智寛	10
	広瀬康子	10
	山本真一	20
大45	大橋厚支	20
	楠木智博	10
大49	木下将夫	10
大53	森脇毅	10
大54	甲斐孝順	10
院29	太田孝志	10
法人	大分交通	
	大分市役所四極会	530
	佐伯建設支部	20
	トキハ四極会	22

職域支部・団体等の明細は割愛しています。

大分大学への寄付者

卒業回	氏名／団体	金額
	古手川産業㈱	
	龍南運送㈱	
	㈱オーシー	
	八鹿酒造㈱	
	㈱オーイーシー	
	大建コンクリート㈱	
	㈲鈴木養鶏場	
	㈱地域科学研究所	
	大分製紙㈱	
	長峰清明	250
	長門和子	30
	鶴崎海陸運輸支部	50

図書の紹介

◆黒土　始氏（高商18）より
・写真で語る――第一交通産業創業者の終わりなき始の物語「生涯　実車　孤高のフロントランナー黒土始」
◆城元　保昭氏（大学7）より
・銀行員時代の想い出
◆石橋　泉三氏（大学13）より
・『世の中おかしいぞ』大嘆小言Ⅱ
◆鈴木　明久氏（大学14）より
・私の歩んできた道「MY WAY」第十巻

◆渡邉　秀生氏（大学20）より
・豊後小藩小景　約束
（令和４年６月の自遊展で希望者に配布の予定）
以上５冊の寄贈がありました。

100周年を補佐して

経済トップセミナーを企画

四極会会長代行　三浦　洋一氏

令和４年に大分大学経済学部が１００周年を迎えられるのは、これまで教壇に立ち、熱心にご教授いただいた多くの恩師のお陰であり、更に高商、経専、大学と２万２千名に及ぶ卒業生が地元大分を始め、九州一円から全国、世界へと羽ばたき、経済や社会を支える担い手として活躍していただいた先輩たちの功績のお陰でもあります。もう一つ忘れてはならないのは、これまでの経済学部の歴史と学生生活を側面から支えてくれた地元大分の地域住民の皆さまのご支援とご協力が大きな支えとなっていることであります。

今回、この「経済トップセミナー」開催の第一の目的は、これまで経済学部を支えてくれた地元の皆さまに「恩返し」の意味で聴講いただきたいという思いがあります。

セミナーの講師５名の方々は、いずれも大分に関わる方や大分に関係の深い企業のトップの方にお願いをいたしました。

第１回の広瀬大分県知事は言うまでもなく、大分県民の代表です。第２回目の前日本銀行総裁白川方明氏は平成６年から日本銀行大分支店長（第20代）を務められています。

第３回目のサッポロビールの日田工場は、西日本エリアの主力工場として２０１０年に竣工されており、大分の地ビール工場として浸透、今年でオープン20周年を迎え、野瀬裕之社長も講演を快く引き受けて頂きました。第４回目の九州電力池邉社長は大分県のご出身です。大分コンビナートの火力発電所や八丁原の地熱発電設備も大いに関係しています。第５回のＪＲ九州の大分駅は九州管内第４位の乗降客数を維持し、大分県の玄関口として、また観光立県大分にとって大きな存在となっています。

三浦洋一氏プロフィール

１９５３年	大分県豊後大野市生まれ
１９７６年	大分大学経済学部を卒業
	㈱大分銀行に入行
２００８年	常務取締役
２０１２年	専務取締役営業統括本部長
２０１５年	取締役副頭取
２０１６年～19年	㈱大分カード社長
２０２０年	大分大学入職、学長補佐

経済学部１００周年のスタートイベントとして、地域の皆さんや現役学生に喜ばれる講演会にしたいと思って企画いたしました。四極会会員の皆さまも是非、ご聴講をお願いいたします。

よろしくお願いします

常務理事兼事務局長　荒川　孝二氏（大26）

本年７月から柴田常務理事の後任として常務理事兼事務局長に就任しました。大学は26回生で卒業後は大分県庁に36年間勤務し、平成26年３月に退職しました。その後大分県観光協会勤務を経て四極会事務局に縁あって勤務することとなりました。不慣れなことも多くご迷惑をおかけすることもあると思いますがよろしくお願いします。本年４月からは約６５０世帯を有する明野緑町の自治会長も務めています。四極会の業務との両立に毎日四苦八苦している状況です。

経済学部は来年６月に創立１００周年を迎え、記念事業も予定されています。皆さんのお力添えをいただき全力を注ぎます。ご指導、ご協力をよろしくお願いします。

新事務局次長　是永　弘実氏（大23）

大分県庁を卒業し、はやいもので10年が経過しました。

37年間の現役の終わりのころは、早く仕事をやめたくて仕方がなかったものですが、いざやめてみると、何となく寂しいもので、民間の介護施設開設準備室や市の窓口職員（たった１週間）、県の非常勤職員などを経て、今に至ったという次第です。

この４月から、四極会の事務局で、主として大分支部の仕事をすることになりました。コロナ禍など、先々よく見えない時代が続きます。

「いま、ここ」を大事に日々過ごしてまいります。よろしくお願いします。

叙勲おめでとうございます

大学16回 衛藤 卓也氏 瑞宝中綬章を受章

私は、西日本エリアで最大規模の福岡大学に42年間勤務し、教育・研究・運営などの主要職務に関わってきました。後半20数年間においては、主要な役職に就き、最終段階では学長職を2期8年勤めました。

退職後は大分市中戸次の郷里で生活していますが、その中で今回の受賞となりました。

私を支え見守っていただいた多くの職員や関係者の力添えによって受賞したもので、これまでのご支援・ご協力に対し衷心より謝意を表したいと思います。

昭和43年3月　大分大学経済学部卒業
昭和49年3月　神戸大学大学院経営学研究科（商学専攻）博士課程修了
昭和49年4月　福岡大学専任講師
昭和52年4月　助教授（1年間、イギリスのリーズ大学交通研究所に留学）
昭和58年4月　福岡大学商学部教授
平成15年12月　福岡大学副学長（1期4年）
平成19年12月　福岡大学学長（2期8年）
平成27年11月　福岡大学退職
福岡大学名誉学長

県議から竹田市長に

土居　昌弘 氏（大42・院25）

2021年4月18日の竹田市長選挙で土居昌弘（大42回・院25回）先輩が当選されました。今回、編集委員の私が土居昌弘先輩に「昌弘が昌弘に聞く」という取材を竹田市役所市長室にてさせていただきました。数年前に四極会会合で知り合い、真面目でユーモアあふれる先輩だと認識していましたが、この取材で改めて知った彼の人となりをお伝えします。

大学卒業後大手旅行代理店に就職したのち、実家の事業後継者として竹田市に戻り、商工会議所青年部で仲間と町づくりに汗を流す。そんなある日、市報で「精神保健ボランティア講座」の募集に目が留まり受講した。そこで精神障害者の厳しい生活を知り「このように困った方々のお役に立てないか？」と思った。まさにココが政治家土居昌弘の原点となる。しかし、32才の彼の身体に異変が生じた。「視野が狭くなる。偏頭痛がする。」検査の結果は「脳腫瘍」。好運だったのは「良性」だったこと。これを機に「いのち」というものを真剣に考え、更に社会のため貢献したい思いが強くなり、術後の後遺症を背負いながら33才で竹田市議会議員となった。

「医療・福祉」を柱に政治家土居昌弘の活動がスタートした。竹田市議を2期、大分県議会議員を4期務めた。副議長時代に制定した「豊かな人生を送るために人生会議の普及啓発を推進する条例」（当時全国初）は、若いときに死を意識した経験があるだけに強く心に残っているとのこと。

これからの竹田市政は「人口減少」「少子高齢化」に合わせた政策が必要、また「移住・定住の促進」そして「企業誘致」も行いたい。「いのち輝く」「いのち守る」「いのち育む」竹田市づくりにあたっていきます、と52才新市長の力強い抱負をいただきました。

皆さま、竹田市の応援よろしくお願いいたします。

【座右の銘「利他の心」】【大学時代「嘉目ゼミ」】【大学院「奥田ゼミ」】（山田昌弘・大43　記）

（写真は左から髙野浩子さん、山田昌弘氏、利光宏司氏）

「塞翁が馬」の如く

名古屋支部　矢野　昭敏（大13）

―①―

「電算機の矢野」と言われた

剣道の指導で海外を廻る

今年で卒壽を迎えたのであの世に行く前に人生を振り返って見ます。大学卒業後名古屋市近郊の小牧市にある２部上場の中堅企業に入社し、会社から車で15分のところにある新興団地に戸建住宅を購入し、親子４人で仲良く暮らしていたところまでは典型的なサラリーマンでした。

転機は50歳のときに訪れました。一時「中京のソニー」と騒がれ急速に発展した会社だったので、同期入社２００名（内大卒50名）前年は新卒３００名、中途２００名と２年間で社員が倍増していました。私たちの採用決定後「今年は採りすぎた」と嘆いた役員がいたくらいで、入社後２年間残業ゼロと言う人手余りの経理部で業務は午前中で終り、午後は自分で仕事を探していました。特にない時は公認会計士の受験講座の勉強をしていたが、とがめる上司はいませんでした。私だけでなく後に社長になった山口大卒の１年先輩は多数いた高卒社員を集め？ゼミを開講していました。そんな中ある日予告もなく社長が職場を訪れ「来年、わが社に電子計算機を導入するぞ！やりたいやつはいるか？」

和田ゼミのとき、４大卒の女性を募集する会社はいない時代だったので、１年先輩の女子学生の就職先を先生自ら全国行脚しＮＣＲと言う外資系コンピュータ会社を見つけられました。電子計算機の将来性を直感された先生は、夏休みの特別授業として同社ＳＥによるプログラミング授業を開いてくださいました。小学生の頃からラジオ製作に興味を持ち、アマ無線の免許を取るなどもともと理系だったので真剣に受講し、プログラミングの基本と電子計算機の将来性を予感できていました。

入社後も暇に任せてダンスを習いに通っていた朝日文化センターで新規開講したＩＢＭのプログラミング講座も終了していたので、全社員が尻ごみする中真っ先に手を上げました。他のメンバーは上司による強制指名でしたが、私だけが自由意志で「電算機導入委員会」に参加しました。最年少だったがプログラミングの知識もあったので、メーカー（ＮＥＣ）のＳＥとの窓口やハード設置後は女子オペレータの訓練まで担当しました。マシントラブルの際は、サービスエンジニアの到着までに原因の見当まで付けていました。また昭和46年に始まった情報技術者試験にただ１人合格し、電算機は矢野に任せておけと言われるようになりました。（おかげで念願の米国勤務は受け入れられませんでした）

しかしプログラミングを書き始めた頃 ”environment” と言う今では中学生でも知っている単語の意味が解らなかったのをきっかけに、それから４年間名古屋にあるＹＭＣＡ英語学校の夜間コースに週２回通い、高校の時からの苦手科目を克服しました。

昭和55年にボランティアで長年にわたり剣道教室で青少年の指導に貢献したことで表彰され、「愛知県青少年指導者海外研修」に選ばれ、カナダ・米国を１ヶ月間旅行しました。

コロラド州デンバーの剣道クラブで稽古しましたが、彼らが日本に武者修行の際、当時１００人ほど生徒のいた私の剣道教室に招待したのをきっかけに、息子たちがホームステイするなど交流が続いています。１９９８年デンバーブロンコスがスーパーボウルで優勝したときに送ってもらったビクトリーグッズは今では貴重品です。

ロスからルート66を通るツアーではジョンウエインの西部劇には必ず出てくるモニュメントバレーや「猿の惑星」のロケ地であるパウエル湖、箱庭好きの日本人ならグランドキャニオンより気に入るブライスキャニオンなど日本発のツアーでは組

ソ連では初めて通訳を経験

み込まれない観光地を回った。

長距離バスにも乗りたかったのでデンバーからモルモン教の本山にある世界一のパイプオルガンを見るためグレイハウンドで15時間かけてモンタナ・ワイオミングなど牧場中心の古い西部を旅しました。ララミーのドライブインで売っていた縛り首の写真を買わなかったことには後悔しています。初めてロッキー山脈を見たときの感動は今でも忘れられません。まさに人生観が変わりました。その後の転職の元になりました。カナダには5回行きました。剣道教室のツアーでは生徒と父兄総勢20名でバンクーバーから夜行急行列車でロッキーに入りジャスパー→バンフをレンタカーで走り、大型外車を初めて運転したパパ達に喜ばれたり、最初は尻込みしていたママ達には1時間の乗馬コースでは物足りないと文句を言われたりしました。

その後平成元年には日本体育協会の第12回スポーツ指導者海外研修に参加し、ソ連・英国・ギリシャ研修旅行しました。最初の訪問国ソ連では通訳がロシア語⇔英語しかだめと言うことで（ソ連は過去11回受け入れを拒否していましたが、ゴルバチョフ大統領のペレストロイカが始まり、初めて受け入れたためスポーツコーチは当然英語が話せるものと思っていたそうです）入国時のトラブルをうまく回避していた私が急遽通訳を担当することになりました。通訳は初めての体験で自信があった訳ではないが、ソ連での研修報告ができないと次の英国にいけないと懇願され引き受けました。やってみたら「窮すれば通ず」のことわざどおり、自分でも信じられないくらいうまくでき報告書には私への謝意を記録してくれました。

その後の英国では、留学中の大学院生が通訳としてついてくれたのでお役ごめんとなったが、ジョーク好きのイギリス人にジョークで切り返すなど考えなくても英語が口に出るようになり、自分にとっては最大の研修成果となりました。「ジョークが言えたら英語は一人前」。

課長に就任のとき「俺のためになる情報を出せ」との社長特命に対し、当時話題になり始めたハーバード大マイケルポータ教授の提唱する「競争優位の戦略」を元にした生産管理システムを提案し、８億の予算をもらい外資コンサルタントのアーサーアンダーセンの指導を受けながらシステムを完成させました。

これが自信過剰となり退職金割り増しのつく選択定年制を利用して50歳での転職を決意しました。その後波乱の人生が待っているとは知らず。転職先に国東に工場のあるテキサス・インスツルメント社や「チーズたら」で業績を伸ばしてきたナトリ社に内定をもらいましたが、運悪くオイルショックの影響でＴＩからは「米本社から採用は一切中止との命がありごめんなさい」との電話がありました。ナトリには先に断っていたので転職を思案していたところ、私の転職をかぎ付けた中小企業から店頭公開を目指しているから頼むと好条件で誘われ平成３年10月に転職しました。

ところが入社してみると財務状態が火の車で、システム担当のはずが財務担当までやる羽目になりました。トヨタ明知工場に初のパソコンＬＡＮによる「カンバン差し立て表示システム」を納入するなど多少の実績を上げたが焼け石に水で、平成11年に負債総額20億円で倒産してしまいました。管財人弁護士への資料提出や倒産費用（倒産するにも資金が要ることを初めて知りました）１８００百万円を捻出するため銀行にばれないように粉飾し弁護士に褒められ？ました。「粉飾決算が出来たら経理マンは一人前」。＝続く

キューバへはダンスツアーで行きました。
現地の彼女たちはとても陽気でした。

ダンススタジオのハロウィンでは黄門様はモテモテ

クレムリン宮殿をバックに。このシーンは007にも出てくる

渋沢の生きざまに「龍馬」がダブる

名古屋支部　信原　眞治（大21）

信原　眞治 氏

渋沢　栄一

坂本　龍馬

唐突だが良い機会なので、新日本国（ニッポンコク）夜明けを築いた「渋沢と龍馬の人間比較論」を述べる。特に、二人の世界観そして共通点と相違点について考察した。

はじめに

「日本資本主義の父」といわれた渋沢栄一。今、ＮＨＫ大河ドラマ『青天を衝け』で、これまであまり知られていなかった「渋沢ワールド」が注目され、コロナ禍の中、その人気はうなぎのぼりで、主役を演じる吉沢亮は、その２枚目ぶりも重なり、その視聴率は抜群に高い。あの坂本龍馬が夢半ばで散り果てたのに対し、渋沢は龍馬の約３倍の91歳まで生き抜き、生涯を日本国の「国益」のために捧げてきた。彼の世界観を見るとまるで「龍馬」を見ているようである。彼の生き様が、龍馬と重なって見えるのは私だけだろうか？身分制度に憤り、経済の自由化が政治と両輪と考え、かつて龍馬が目指した、海援隊の商社化、さらに、世界に目を向けた欧米先進国化など、まさに、彼らの考えや思想は同一世界のものであり、富豪の農人から武士となり、文武両道を貫いた渋沢は、商人から武士になった龍馬からバトンを渡された「幕末の志士・新国家樹立の立役者」として極めて酷似している。「渋沢の生き様に龍馬がダブる」のは私だけだろうか？私なりに、多くの文献を読み漁り、研究し、彼らの世界観の酷似点と相反点をこれから紐解いていきたいと考える。多少強引・独断的なところもあるが、なにとぞご容赦願う。

渋沢と龍馬の世界観

激動の時代を生きた、一色では描けない二人の世界を、「渋沢栄一語録」からとらえてみる。ＮＨＫ大河ドラマ「青天を衝け」の表題は、若き日の栄一が詠んだ漢詩の一節が由来になっている。「勢衝青天穰臂捲暢気穿白雲垂手征（勢いは青天を衝きてひじをまくりてのぼり、気は白雲をうがちて手に睡してゆく）」からとっている。これは、厳しい山道を突き進んだ果てに（写真）栄一が詠んだ詩である。

◆彼らの世界観の酷似点と相反点

先に結論から述べると、彼らの世界観の酷似点は、生まれながらに裕福であり、金に困らなかったという、良い意味で現実から解放されていた。片や豪農、片や豪商の出であり経済的に有利であったと思われる。そして、不条理な官尊民卑思想や藩政、身分制度への憤り、そしてそれを打破する日本の近代化の必要性や早急なグローバリゼイション化にその思想の根底があった。さらにすごいことは、栄一は欧州を視察して近代化の必要性を実感したが、驚くことに、龍馬は大隈重信と同様、海外に行かずしても「近代化の世界観」を共有していたことだ。一方、彼らの相反点は、栄一は「官」である大蔵省にいったん身を投じたが、龍馬は船中八策、大政奉還草稿、組織役職図にも自分の名前は一切出さず、政界進出の野望はなく、世界を夢見る一介の「ロウニン」精神を貫こうとしていた。また、尊王攘夷思想の持ち主だった二人だが、栄一は龍馬と違い、途中で無謀な倒幕運動に終止符を打った。しかし、栄一も大蔵省退官後は、全く龍馬と同じ道を進んだことを考えると、相違点が次第に無くなってしまうのかもしれないが・・・・・・・・。

◆思想の根底にある「論語」

孔子の「論語」と「そろばん」はともに一致しなければならないというのが持論である栄一は、父の影響もあり幼少のころから論語に通じていた。彼は「利益を追求するのは間違いではなく、むしろ積極的にやるべきだ。それこそが国を富ませ、国を強くする元である」と説く一方で、利益を求めすぎて道徳心や倫理観が失われないように、実業界に「論語」の教えを取り入れたのだ。我々は経済学部卒ではあるが、現在の社会でも通じる公益・倫理観である。また、彼が導き出した「道徳経済合一説」は、龍馬が暗殺された同じ「33歳」で大蔵省を辞して実業界に身を投じて以来、一貫して取り組んできたもので、「仁義道徳と生産殖利（経済）とは、全く合体するものである」と説いている。この視点は、龍馬も全く

同じで、日本初の総合商社「カンパニー・亀山社中」を設立した際には、道徳心や倫理観が失われないよう、法外な利益を求めすぎず極めて適正な価格を設定し、道徳・利潤を調和させた商取引に努めたようである。栄一の『論語と算盤』は近代から現代までかけて多くのビジネスマンが愛読し今も読み継がれている。

◆公益のために生きる

栄一は５００社以上の起ち上げや経営に関わり「日本資本主義の父」と呼ばれたが、意外にも金銭に対して淡白だった。彼は企業経営においても、利益の独り占めにつながるような独力経営はなるべく避け、株式会社や合資会社を興し、利益は皆で分け合ってきた。「公益追求」は、まさに「自忘他利」という思想から出たものではあるまいか。栄一も龍馬も、「自忘他利」、もしくは「忘己他利」の精神がみなぎっていると思う。「自忘他利」とは、自分を忘れて他人のためにつくすことをいう。「己を忘れて他を利するは、慈悲の究極なり」であろう。ただし、他人に利益を与えるからといって、見返りを期待する気持ちは持ってはならないと、二人は自戒していた。「自忘他利」は、他に利益を与えるからといって、自分は不利益をかぶり、不幸になるということではない。他を幸せにすることで、自分も幸せになるということであろう。

◆信用を重視して行動する

栄一は信用を重視して行動する人物。２０１５年９月から放送のＮＨＫ連続テレビ小説「あさがきた」の劇中で、三宅裕司演じる栄一は銀行経営の秘訣について「赤字を出さないこと」を述べていた。一見ありきたりだが、それには信用が必要で、「経営者は誠実に商売しなければならない」という意味が含まれており、栄一は民間外交にも力を入れたが、「信用」は最も重視すべきテーゼと肝に銘じていた。龍馬も、そのことは行動の最優先事項と考え、多くの人たちから絶大な「信用」を受けていた。その代表例が、あの薩長同盟の朱字の裏書きであろう。西郷隆盛と桂小五郎の要請を受け、単なる土佐の一脱藩浪士がその場に立ち合い、裏書きを行い同盟成立の歴史的承認をしたのである。宿敵関係にあった両藩が結託するまさに「歴史が動いた瞬間」であろう。この史実こそが龍馬が「信用に当たる人間」として認める根拠である。これはまさに龍馬への「信用が形」になった瞬間であろう。この快挙から歴史は大きく舵がきられ、徳川幕府に終焉をもたらした大政奉還へと向かう大転換期となったのである。まさに「新日本国の夜明け」の瞬間であろう。

◆卓越したコミュニケーション力

栄一は幅広い人脈から〝生きた情報〟を入手してきた。人付き合いの達人だった彼は組織づくりの名手だった。また栄一は情報収集に長けていたが、これも卓越した人付き合いの能力がなしたものであった。インターネットもなかったこの時代、生きた情報は人から得るのが常道だった。幕末期の栄一は徳川慶喜や西郷隆盛、近藤勇など、様々な一流の人物と接し、明治以降も伊藤博文、大隈重信、井上馨といった維新の元勲と交流した。

しかし、龍馬は、彼以上に「会話の名手」であり、屈指の「聞き上手」であった。しかも明るい人柄でユーモアもあったので、対面した人間は素直に心を開いて胸の内を語ったという。そのおかげで栄一も龍馬も自然と〝有益な情報〟を手に入れることができたのだろう。

◆常に国家について考える

龍馬の行動の基軸は、たえず「藩政」の概念を超えた「日本」にあった。龍馬の最近発見された手紙に「新国家」の表示がある。これは初めて日本を「ホールドな言葉」で伝えた歴史的な龍馬の言葉であろう。龍馬がかねがね『天下の事』という表現で「国家」のことを第一義に捉え、ワールドワイドで日本社会を捉えていたのは、栄一とまるで同一思想で、彼らの全ての行動は「国」が念頭にあっての行動に違いない。

関わった企業は５００社に

今こそ私たちは、渋沢栄一の理念を学ばなければならない。

龍馬は志半ばで世を去ったが、明治から大正にかけて大活躍した「実業家」は渋沢栄一をおいて他にいないのだ。彼が設立や運営などその生涯に関わった企業は約５００を数えると言われ、「日本資本主義の父」と評されることも多い。加えて、約６００の教育・社会事業にも携わったとされる。実に優れた才能と努力の持主だ。まさに経営者の鑑であろう。

そんな〝偉人〟については、これまであらゆる形で多くの人に語られてきた。しかし、ここにきて、渋沢栄一の「理念と功績」に改めて注目が集まっている。そのキーワードとなるのが、彼が行った「開放的な経営」と「倫理と利益の両立」だ。グローバル化が進んだ現代においても、渋沢が実践した『開放的な経営』を求める機運が当たり前のように高まっている。また、彼が徹底した『倫理と利益の両立』は、今、多くの経営者が目指す形といえる。

渋沢栄一と坂本龍馬。その映像がダブるのは私だけではないでしょう。栄一の生き様は龍馬の生き様そのものに映る。龍馬が目指した自由民権主義国家。それを実業で実現した渋沢栄一。

もし龍馬が今生きていたら、彼は自由民権大帝国を築き、政治などは閣僚に任せて、最先端の太陽光・風力発電の超最新鋭黒船『いろは丸』で、権平兄、乙女姉やんや甥の直寛、武市、長次郎、以蔵、弥太郎など多くの友や仲間と共に「７つの大海原」を大クルージングしているに違いない。「わしゃフリーじゃき！」と、声高々に・・・・・・。

「世の人は我を何とも言わば言え、我成すことは我のみぞ知る」

学生広場

コロナ禍で多くのことを学ぶ

社会イノベーション学科
４年　古椎　正暉

コロナウイルスの最初の影響を受けたのは私が３年次になった時でした。その年の前期からすべての講義がオンラインでの開催となり、一番苦労したのは、本格的に始まったゼミでの仲間との距離の縮め方でした。話したことのない初対面の人たちもいる中で画面を通しての活動というのは難しく、特に私のゼミでは話し合いをする機会も多かったのでなかなか進まず、ゼミ長という立場でどうまとめていけばよいのか迷いました。しかし、当時４年生の先輩方が私たちのゼミに参加してくれたこともあり、少しずつコミュニケーションがとれるようになり、距離も自然と縮まりました。後期からは、ゼミは対面となり、「大分の歌音楽祭」を成功させるという共通目標の中で、実際に会って活動する機会も増えていきました。それ以外のプロジェクトにも取り組み、長湯温泉地域には何度か足を運びました。新しい人脈も増えました。このように、実際に人と「会う」ということは何ものにも代えられないと感じています。

一方で、私はコロナ禍での就職活動を経験しました。今、振り返ってみると、あまり人と直接会えなかったという点において孤独を感じることが多かったです。就職活動の中で、面接の準備や受け終わってからの結果によって、気分の波が激しく、不安な気持ちになることもありました。例年なら、友人と息抜きに食事に行ったりするのでしょうが、それが難しい状況でした。私自身は「つながることをあきらめない」ことでそのような不安や孤独を乗り越えてきたと自負しています。家族や友人などに電話をかけ近況報告をしたり、オンラインで一緒にゲームをすることでつながったりなど、とにかく誰かとつながっていると感じることで、なんとかモチベーションを保ち続けることができました。この就活時期を経て、「人」あっての自分なのだと感じることができました。

コロナ禍で過ごしたこの二年間の大学生活はある意味貴重です。その中で感じたことや考えたことを記憶から消さず、これからも真剣に生きていきたいと思います。

友達との交流が広がり充実

社会イノベーション学科
２年　河野　桃佳

私が大学の入学準備をしていた頃からコロナウイルスがはやりだし、入学式も文化祭も、その年のイベントすべてが中止となりました。授業は初回からオンラインで行われ、顔出しで学生同士が話し合える機会も少なく、大学生になったら、友達と楽しい自由な生活を送れるかなと期待していたので、そのダメージはとても大きいです。２年生となり、コロナも少し落ち着き、一部の科目で数回対面授業も行われましたが、その後状況が悪化、結局ほとんどの授業がオンラインに逆戻りし、学校にほとんど行っていません。そのため、実は今でも大学のことも良くわからず、大学生になった気がしません。

ただ、このような状況の中でも、少しずつですが、人と交流もしてきました。初めてオンライン授業を受ける時には、Ｚｏｏｍに入る方法すらわからず、どうしようか慌てましたが、同じ出身高校の友達に教えてもらうことで対応できました。また、授業で分からないことがある時も、その友達に聞いたり相談したりすることで単位を落とすことなく学校生活を乗り切りました。１年次の８月くらいになると、授業でたまたま同じグループになった女子学生と授業を通じて仲良くなり、一緒に勉強をする約束をしました。また、同じセミナーだった女子学生たちとも遊ぶ約束をすることができ、その輪が拡がり、大学の仲間たちとの交流も少しずつ増えていきました。バドミントンのサークルにも入りました。

私はあまり社交的ではない性格なので友達を作ることにとても苦労していますが、Ｚｏｏｍの授業で行われる「ブレイクアウトルーム」を積極的に活用し、ＬＩＮＥの交換などをしています。この方法が、おそらく唯一の友達を増やす機会だと感じています。サークル活動について、今では少しずつ友達と行けるようになったのでこれから交流関係が増えることを期待しています。思い描いていたものにはほど遠いですが、これからコロナウイルスが収束して普通に大学生活を楽しめる日が来ることを願いながら、このオンライン中心の大学生活を乗り切っていこうと思います。

留学体験記

予想外の学びや刺激に出会った

地域システム学科
３年　佐藤　日向

私は、オランダのＮＨＬ大学に７か月間留学しました。スタイリッシュな校舎に管理の行き届いた学生寮、何より異文化に寛容で、英語話者が多い環境のおかげで、快適な生活を送ることができました。授業では、か

表紙のことば

「用作公園」　**大分市　山城　幸三郎（大７）**

この公園は、豊後大野市朝地町上尾塚にある。元和９年（１６２３年）に竹田藩々主の中川久盛より、家老の中川平右衛門長伸に賜った別荘地です。家老の別邸として造園されると、藩主は勿論、南画家の田能村竹田、儒学者の頼山陽など文人、墨客の宿ともなり、竹田藩の接待重要拠点になっていました。

駐車場から坂を下るとまず心字池があり、その下に丹字池があります。この心字池を中心に五百本余のモミヂやカエデなどの紅葉樹が植えられています。11月の紅葉祭りの週末や祝日にはライトアップが行われます。売店や出店もあり、この時期には福岡、熊本、宮崎などの隣県のカメラマングループや観光客が大勢訪れて賑っています。

新型コロナウイルスの為、今年の紅葉祭りは中止になっていますが、紅葉見物は大丈夫とのことです。11月の中旬に紅葉狩りは如何ですか！

予想外の学びや刺激に出会った

地域システム学科　３年　**宇都宮大志**

私はアメリカのサンフランシスコ州立大学に留学しました。初の海外留学で、はじめの頃は言葉の壁や文化の違いに苦しみました。しかし、サンフランシスコは多様性溢れるまちで、周りの人々の温かさや思いやりに何度も助けられました。大学の講義では現地の学生についていけず、悔しい思いもしましたが、講義後は教授の研究室に毎回駆けつけ、１時間以上質問したり教授との会話を重ね、内容の理解を深めていきました。そこで得た「学ぶ姿勢」の大切さは、ねてから興味のあった広告デザインやマルチメディアの学習に没頭しました。グループワークが多く、他の学生との距離を縮めやすい一方で、プロジェクトの発展のために自分の能力を表現することが求められました。なかなか自信が持てず苦労しましたが、集団全体を見渡し提案する力として、今活きています。異文化交流のイベントでは、ホールに様々な国のブースが並び、食べ歩いたりダンスを踊ったりと、お祭りのように楽しみました。そのように目まぐるしい留学生活の中で、私は二つの大切な時間に支えられました。人と共有する時間と自分と向き合う時間です。恥をかくことを恐れずに多くの人と話してみることがいつの間にか自分のエネルギーになっていたり、自分の行動や感情を冷静に振りかえることで努力が必要な部分や活かせる長所が見え、成長することができました。最後に、留学に正解のカタチはありません。しかし、誰しもが予想外の学びや刺激に出会うはずです。小さな出会いを素敵なご縁に変えて、この機会を存分に活用してみてはいかがでしょうか。

今の私の原動力です。

大学以外では、起業家にお会いしに行ったり、イベントを主催したりと自ら行動を起こすことを第一としていました。サンフランシスコにはシリコンバレーが隣接しており、GAFAをはじめとしたIT世界最先端の街と言えます。自動運転車の走行や無人コンビニ、ロボットがコーヒーを淹れるショップがあったりと、最先端のテクノロジーが社会に溶け込んでいる姿に大きな衝撃を受けました。また、起業家のピッチも毎週のように開催されており、世界中から集まる起業家や一流のエンジニアに出会い、彼らの熱意やビジョンに触れることができたのは私にとって大きな糧となりました。サンフランシスコ留学で得た経験と、支えてくださった多くの方々への感謝の思いを胸に、私自身も恩返しができるよう今後もより一層励んでいきたいです。

物故者

◆経専

24　髙木　浩邦（R３・１・20）
26　久保　敏（R３・１・５）
27　安藤　典昭（R２・５・23）

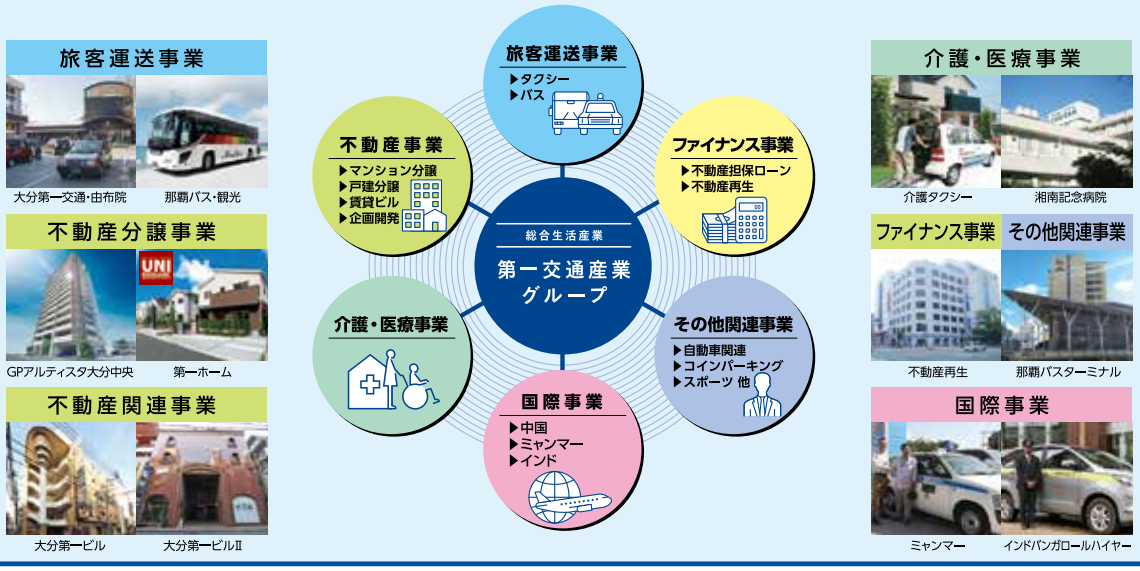
◆大学

3　岡﨑　尚靖（R３・１・14）
3　田原　榮一（R３・10・７）
4　齋藤　俊志（R３・８・27）
5　平田　隆行（R２・12・８）
5　三原　侃士（H31・４・１）
6　川添　徹（R３・４・19）
7　二宮　正和（R３・２・21）
8　野崎　永保（R３・８・20）
10　広畑　孝行（R３・１・28）
11　藤丸　靖夫（R３・５・19）
11　矢野　義明（R３・９・５）
12　小手川正憲（R３・６・14）
13　財津　昌宏（R３・７・30）
14　児玉　道彦（R３・５・８）
15　岡村　豊（H30・11・17）
15　広永登志雄（R３・１・11）
16　東島正八郎（R３・６・６）
24　相良　直介（―・―・―）
42・院18　古庄（秦野）朋子（R３・７・23）

◆院

2　仲村　隆文（R３・６・８）

北海道から沖縄まで全国をネットワークする第一交通産業グループ



一般財団法人 **第一交通産業 記念館**　〒802-0042 北九州市小倉北区足立２丁目７-17

ご来館される皆様へ

発熱（37.5℃を目安）又は風邪の症状が有る場合は来館をお控えください。
入館時はマスク着用をお願い致します。 **緊急事態宣言中は閉館となります**

●開館時間　午前10時～午後５時（入館は午後４時30分まで / 年中無休）
※臨時休館日があります。また開館時間が変更になる場合がございます。ご了承ください。

●交　　通　・バス：小倉駅バスセンターから西鉄バス「霧丘三丁目行き」27番、28番に乗車、「妙見下バス停」で下車。徒歩約7分。
小倉駅入口バス停から西鉄バス「霧丘三丁目行き」93番に乗車、「妙見橋バス停」で下車。徒歩約4分。
・車：北九州都市高速「足立北ランプ」又は「富野ランプ」から約５分。(記念館には駐車場完備)

入館無料

通常はセキュリティーシャッターが下りていますので、インターホンを押してください。

【ご見学のお問合せは】
第一交通産業株式会社　総務部 TEL093-511-8811㈹

グループ本社 代表取締役 創業者会長　**黒土 始**（高商18回）

総合生活産業
第一交通産業グループ DAIICHI
〒802-8515 北九州市小倉北区馬借2丁目6番8号